

開 講 年 次	2 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修	選 択	単 位 数	2	時 間 数	30	授 業 形 態	講 義
授 業 科 目 (英 文)	マーケティング論Ⅰ（Marketing ManagementⅠ）						科目分類	専門科目	
担 当 教 員	夏 目 千 恵 子								
履 修 条 件	前提科目	なし							
	そ の 他	なし							
授業概要： 企業の活動のうち、マーケティングは最も重要な活動の一つです。本科目では「マーケティング」とは何かを学んだ後に、マーケティングを構成する基本用語、理論と事例など、マーケティングの全体像を学んでいきます。									
授業目標： (1) マーケティング理論の基本的な考え方や発想方法について理解を深めること。 (2) 身の回りの製品やサービス、興味関心を持った企業の活動などについて分析・考察ができるようになること。 以上2点を本科目の目標とします。									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成				学びに向かう力・人間性の涵養		
◎			○						
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授 業 回 数	授 業 内 容 及 び 計 画（詳細に記入）					事 前 ・ 事 後 学 習（学習課題）		授 業 形 態	
1	オリエンテーション マーケティングとは					事前：テキストの通読 事後：テキストの理解		講義40分 グループワーク 50分	
2	マーケティング発想の経営					事前：テキストの通読 事後：テキストの理解		講義40分 グループワーク 50分	
3	マーケティング論の成り立ち					事前：テキストの通読 事後：テキストの理解		講義40分 グループワーク 50分	
4	マーケティングの基本概念					事前：テキストの通読 事後：テキストの理解		講義40分 グループワーク 50分	
5	製品のマネジメント					事前：テキストの通読 事後：テキストの理解		講義40分 グループワーク 50分	
6	価格のマネジメント					事前：テキストの通読 事後：テキストの理解		講義40分 グループワーク 50分	
7	広告のマネジメント					事前：テキストの通読 事後：テキストの理解		講義40分 グループワーク 50分	
8	チャネルのマネジメント					事前：テキストの通読 事後：テキストの理解		講義40分 グループワーク 50分	
9	マーケティング活動(1) 環境分析					事前：テキストの通読 事後：テキストの理解		講義40分 グループワーク 50分	
10	マーケティング活動(2) 計画を立てる					事前：テキストの通読 事後：テキストの理解		講義40分 グループワーク 50分	
11	マーケティング・ミックス(1) プロダクト（商品戦略）					事前：テキストの通読 事後：テキストの理解		講義40分 グループワーク 50分	
12	マーケティング・ミックス(2) プライス（価格戦略）					事前：テキストの通読 事後：テキストの理解		講義40分 グループワーク 50分	
13	マーケティング・ミックス(3) プレイス（流通戦略）					事前：テキストの通読 事後：テキストの理解		講義40分 グループワーク 50分	
14	マーケティング・ミックス(4) プロモーション（コミュニケーション戦略）					事前：テキストの通読 事後：テキストの理解		講義40分 グループワーク 50分	
15	まとめ					事前：テキストの通読 事後：テキストの理解		講義40分 グループワーク 50分	
教本： 石井淳蔵・廣田章光・清水信年編著『1からのマーケティング』中央経済社						参考文献： なし			
成績評価の方法、評価基準： 定期試験（60％）、レポートなど（20％）、平常点（20％）。到達目標が達成できたかを評価する。									
学生へのアドバイス： マーケティングとは、企業活動における「売れる仕組みの構築」に関する活動の総称です。興味を持って学んでいきましょう。									
オフィスアワー： 月曜日の昼休み									

開 講 年 次	2 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修	選 択	単 位 数	2	時 間 数	30	授業形態	講義
授業科目(英文)	マーケティング論Ⅰ（Marketing ManagementⅠ）						科目分類	専門科目	
担 当 教 員	宮崎 隆								
履 修 条 件	前提科目	なし							
	そ の 他	なし							
授業概要： 伝統的なマーケティング理論は、消費者行動論や広告に代表されるコミュニケーション戦略でしたが、近年はEC（エレクトリック・コマース）市場の発展が著しく、消費・流通市場は大きく変わりました。この点にも留意して、マーケティングの基本概念とツールを講義します。事例研究も含みます。									
授業目標： (1) マーケティングの視座で経済をみる。 (2) 事例研究できること。 PBL(課題解決型学習)を入れることもあります。									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成				学びに向かう力・人間性の涵養		
○			◎						
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態	
1	ガイダンス：講義の進め方と範囲の説明。評価の方法。					事前：用語表の作成 事後：講義の要約		講義(60分；PBL含む) 小レポート(30分)	
2	消費市場： (1) 消費者統計 (2) わが国の消費の特徴 (3) 消費市場の歴史					事前：配布資料の精読。 事後：講義の要約		講義(60分；PBL含む) 小レポート(30分)	
3	市場調査： (1) 市場調査の必要性 (2) 市場調査の概要 (3) 市場調査の手順					事前：配布資料の精読。 事後：講義の要約		講義(60分；PBL含む) 小レポート(30分)	
4	消費者行動： (1) 購買の意思決定の要因 (2) 購買とマーケティング (3) 情報収集					事前：配布資料の精読。 事後：講義の要約		講義(60分；PBL含む) 小レポート(30分)	
5	製品のライフサイクル： (1) ライフサイクルとは (2) 製品の普及と顧客					事前：配布資料の精読。 事後：講義の要約		講義(60分；PBL含む) 小レポート(30分)	
6	製品戦略： (1) 流通業者による商品開発 (2) 製品ミックスと製品政策 (3) 製品政策					事前：配布資料の精読。 事後：講義の要約		講義(60分；PBL含む) 小レポート(30分)	
7	価格戦略： (1) 価格戦略の意味 (2) 価格競争 (3) 新製品と価格 (4) プライシングの重要性					事前：配布資料の精読。 事後：講義の要約		講義(60分；PBL含む) 小レポート(30分)	
8	チャネル戦略： (1) 販売経路の意味 (2) 販売経路の形態 (3) 販売経路戦略の実践					事前：配布資料の精読。 事後：講義の要約		講義(60分；PBL含む) 小レポート(30分)	
9	マーケティング・コミュニケーション1： (1) 広告の意義 (2) 広告計画 (3) 広告の種類 (4) PR活動とパブリシティ戦略					事前：配布資料の精読。 事後：講義の要約		講義(60分；PBL含む) 小レポート(30分)	
10	マーケティング・コミュニケーション2： (1) 販売促進活動 (2) 販売員活動 (3) DM、イベント他					事前：配布資料の精読。 事後：講義の要約		講義(60分；PBL含む) 小レポート(30分)	
11	サービス・マーケティング： (1) モノとの違い (2) サービスの評価と価値 (3) 事例研究					事前：配布資料の精読。 事後：講義の要約		講義(60分；PBL含む) 小レポート(30分)	
12	ブランド： (1) ブランドの意味 (2) 歴史とランキング (3) ブランド価値と機能					事前：配布資料の精読。 事後：講義の要約		講義(60分；PBL含む) 小レポート(30分)	
13	eマーケティング： (1) 電子商取引の実践 (2) 市場の動向 (3) SNSの影響 (4) 統計					事前：配布資料の精読。 事後：講義の要約		講義(60分；PBL含む) 小レポート(30分)	
14	SDGsマーケティング： (1) 新時代のマーケティング (2) 企業活動とSDGs (3) 今後の方向性					事前：配布資料の精読。 事後：講義の要約		講義(60分；PBL含む) 小レポート(30分)	
15	本講座のまとめ： 新しいマーケティング					事前：配布資料の精読。 事後：講義の要約		講義(60分；PBL含む) 小レポート(30分)	
教本： 恩蔵直人『マーケティング』第2版 日経文庫 2019					参考文献： 岸 志津江、田中 洋、嶋村和恵 著『現代広告論』第3版 有斐閣アルマ 2017				
成績評価の方法、評価基準： 小テスト・レポート等（20%）、定期試験またはレポート（80%）等で総合評価する。									
学生へのアドバイス： マーケティングは最も身近に接することができる商業活動です。マーケティングの基本概念・理論を身につけて下さい。									
オフィスアワー： 初回講義日に伝える。									

開 講 年 次	2 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修	選 択	単 位 数	2	時 間 数	30	授 業 形 態	講 義
授 業 科 目 (英 文)	マーケティング論Ⅱ（Marketing ManagementⅡ）						科目分類	専門科目	
担 当 教 員	夏 目 千 恵 子								
履 修 条 件	前提科目	なし							
	そ の 他	なし							
授業概要： 「マーケティングⅠ」ではマーケティングの基礎を学びました。「マーケティングⅡ」においては、最新の情報を学んでいきます。									
授業目標： (1) マーケティング理論の基礎知識を習得する。 (2) マーケティング理論が観光ビジネスでどう実践されているのか理解し、把握する。 以上2点を本科目の目標とします。									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成				学びに向かう力・人間性の涵養		
◎							○		
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授 業 回 数	授 業 内 容 及 び 計 画（詳細に記入）					事 前 ・ 事 後 学 習（学習課題）		授 業 形 態	
1	オリエンテーション					事前：テキストの熟読 事後：テキストの理解		講義40分 グループワーク 50分	
2	サプライチェーンのマネジメント					事前：テキストの熟読 事後：テキストの理解		講義40分 グループワーク 50分	
3	営業のマネジメント					事前：テキストの熟読 事後：テキストの理解		講義40分 グループワーク 50分	
4	顧客関係のマネジメント					事前：テキストの熟読 事後：テキストの理解		講義40分 グループワーク 50分	
5	ビジネスモデルのマネジメント					事前：テキストの熟読 事後：テキストの理解		講義40分 グループワーク 50分	
6	顧客理解のマネジメント					事前：テキストの熟読 事後：テキストの理解		講義40分 グループワーク 50分	
7	ブランド構築のマネジメント					事前：テキストの熟読 事後：テキストの理解		講義40分 グループワーク 50分	
8	ブランド組織のマネジメント					事前：テキストの熟読 事後：テキストの理解		講義40分 グループワーク 50分	
9	社会責任のマネジメント					事前：テキストの熟読 事後：テキストの理解		講義40分 グループワーク 50分	
10	顧客価値、顧客満足とは何か					事前：テキストの熟読 事後：テキストの理解		講義40分 グループワーク 50分	
11	価値連鎖（バリューチェーン）分析					事前：テキストの熟読 事後：テキストの理解		講義40分 グループワーク 50分	
12	ブランドを理解する グローバルブランドについて					事前：テキストの熟読 事後：テキストの理解		講義40分 グループワーク 50分	
13	マーケティングの成功要因					事前：テキストの熟読 事後：テキストの理解		講義40分 グループワーク 50分	
14	グローバル市場としての日本					事前：テキストの熟読 事後：テキストの理解		講義40分 グループワーク 50分	
15	まとめ					事前：テキストの熟読 事後：テキストの理解		講義40分 グループワーク 50分	
教本： 石井淳蔵・廣田章光・清水信年編著『1からのマーケティング』中央経済社					参考文献： なし				
成績評価の方法、評価基準： 定期試験（60%）、レポート等（20%）、平常点（20%）。到達目標が達成できたかを評価する。									
学生へのアドバイス： マーケティングとは、企業活動における「売れる仕組みの構築」に関する活動の総称です。興味を持って学んでいきましょう。									
オフィスアワー： 初回講義日にお伝えします。									

開 講 年 次	2 年 次 半 期	選択・必修	選 択	単 位 数	2	時 間 数	30	授業形態	講義
授業科目(英文)	マーケティング論Ⅱ（Marketing Management Ⅱ）						科目分類	専門科目	
担 当 教 員	宮崎 隆								
履 修 条 件	前提科目	マーケティング論Ⅰを履修していることが望ましい。							
	そ の 他	なし							
授業概要： マーケティング論Ⅰでは基本的なマーケティング理論を講義しました。本講座はマーケティングの応用編としてケーススタディを中心に論じます。実際の成功例と失敗例をあげますが、通常取り上げられない分野もピックアップします。また、近年急拡大している e コマースも取り上げます。									
授業目標： (1) マーケティングの実際を知る。 (2) 情報入手の方法を知る。 PBL(課題解決型学習)を入れることもあります。									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得				思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養		
○				◎					
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態	
1	ガイダンス：講義の進め方と範囲の説明。評価の方法。					事前：用語表の作成 事後：講義の要約		講義(60分；PBL含む) 小レポート(30分)	
2	音楽マーケティング1 J.Pops： (1) ジャンル (2) わが国の音楽市場の変遷と展開 (3) J. ポップスの成長と衰退					事前：配布資料の精読。 事後：講義の要約		講義(60分；PBL含む) 小レポート(30分)	
3	音楽マーケティング2 Pops： (1) ジャンル (2) 世界の音楽 (3) どのようにしてヒットしたか (4) Pops と J. Pops					事前：配布資料の精読。 事後：講義の要約		講義(60分；PBL含む) 小レポート(30分)	
4	クルマのマーケティング1： (1) 耐久消費財のマーケティングとは (2) 製品開発としてのクルマ・マーケティング					事前：配布資料の精読。 事後：講義の要約		講義(60分；PBL含む) 小レポート(30分)	
5	クルマのマーケティング2： (1) 100年に1度のマーケティング(EV) (2) 巨額投資製品のマーケティング					事前：配布資料の精読。 事後：講義の要約		講義(60分；PBL含む) 小レポート(30分)	
6	メディアとマーケティング1： (1) 活字媒体の変遷 (2) 各種メディアの動向					事前：配布資料の精読。 事後：講義の要約		講義(60分；PBL含む) 小レポート(30分)	
7	メディアとマーケティング2： (1) ラジオ (2) テレビ (3) インターネット					事前：配布資料の精読。 事後：講義の要約		講義(60分；PBL含む) 小レポート(30分)	
8	健康マーケティング： 現代人は健康と安全にコストをかけるといわれているが。					事前：配布資料の精読。 事後：講義の要約		講義(60分；PBL含む) 小レポート(30分)	
9	E-コマース1： (1) アマゾンと楽天 (2) IoT とは何か (3) 市場の動向と今後					事前：配布資料の精読。 事後：講義の要約		講義(60分；PBL含む) 小レポート(30分)	
10	E-コマース1： (1) e-コマースにおけるSNS活用 (2) SNSの実態と広告					事前：配布資料の精読。 事後：講義の要約		講義(60分；PBL含む) 小レポート(30分)	
11	環境マーケティングとSDGs： (1) 地球規模のマーケティング (2) エコマーケティング					事前：配布資料の精読。 事後：講義の要約		講義(60分；PBL含む) 小レポート(30分)	
12	行政とマーケティング： (1) 私たちの税金は有効に使われているのか (2) 行政は公共マーケティングを活用しているか					事前：配布資料の精読。 事後：講義の要約		講義(60分；PBL含む) 小レポート(30分)	
13	政治とマーケティング： マーケティングのツールで政治(家)をとらえてみる。彼らは何を重要視しているのか？					事前：配布資料の精読。 事後：講義の要約		講義(60分；PBL含む) 小レポート(30分)	
14	ヒット商品列伝： ヒット商品はマーケティングの成功なのか、それとも製品・サービスの成功なのか？					事前：配布資料の精読。 事後：講義の要約		講義(60分；PBL含む) 小レポート(30分)	
15	衰退した商品例ーオーディオ： 3大趣味といわれたオーディオはなぜ衰退したか。					事前：配布資料の精読。 事後：講義の要約		講義(60分；PBL含む) 小レポート(30分)	
教本： 恩蔵直人『マーケティング』第2版 日経文庫 2019					参考文献： 岸 志津江、田中 洋、嶋村和恵 著『現代広告論』第3版（有斐閣アルマ）2017				
成績評価の方法、評価基準： 小テスト・レポート等（20%）、定期試験またはレポート（80%）等で総合評価する。									
学生へのアドバイス： 実際の商品・サービスがどのようなマーケティング手法で市場に出たかを知ることができます。									
オフィスアワー： 初回講義日に伝える。									

開 講 年 次	1 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修	選 択	単 位 数	2	時 間 数	30	授業形態	講 義
授業科目(英文)	マルチメディア A（画像）（Multimedia A）						科目分類	基礎科目	
担 当 教 員	秋 廣 誠								
履 修 条 件	前提科目	情報基礎							
	そ の 他	PCの操作スキルを習得していない場合、必ず上記科目から履修すること							
授業概要： デジタル画像は、現代のデジタルコンテンツの重要な基本要素である。デジタル画像に関する知識と編集技術について、PC／スマートフォンを利用した作品制作を通して学修する。									
授業目標： 1．デジタル画像に関する用語を理解し、説明ができる。 2．視覚表現の意図に沿って、計画的にデジタル画像を編集することができる。									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成				学びに向かう力・人間性の涵養		
◎			○						
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態	
1	シラバスの説明／デジタル画像の分類を理解する					事前：シラバスを読む 事後：デジタル画像の分類を調べる		講義	
2	カメラの仕組みと撮影環境を理解する デジタル画像の仕組みの概要を理解する					事前：撮影機材の準備 事後：授業内で指示する		講義 60分 演習 30分	
3	講義内容を踏まえ撮影を実践する					事前：撮影の計画を練る 事後：画像データを整理する		講義 60分 演習 30分	
4	画像編集ソフトの基本操作について理解する					事前：画像編集ソフトを準備する 事後：画像編集ソフトについて復習する		講義 60分 演習 30分	
5	画像にレタッチを施す／画像ファイルの管理方法を理解する					事前：教材となる画像データを準備する 事後：レタッチについて復習する		講義 60分 演習 30分	
6	画像編集におけるレイヤーの概念、使用方法とその応用を理解する					事前：教材となる画像データを準備する 事後：レイヤーについて復習する		講義 60分 演習 30分	
7	画像編集におけるフィルターの使用方法とその応用を理解する					事前：教材となる画像データを準備する 事後：フィルターについて復習する		講義 60分 演習 30分	
8	これまでの演習を踏まえコラージュを作成する／作例を鑑賞する					事前：コラージュについて調べる 事後：コラージュを作成する		講義 60分 演習 30分	
9	デジタル画像の諧調と色彩が、どのように保存されるかを理解する／色空間の概念を理解する					事前：教材となる画像データを準備する 事後：諧調と色彩の表現について復習する		講義 60分 演習 30分	
10	文字の要素による視覚効果を理解する／事例をもとに誘目性について検討する					事前：教材となる画像データを準備する 事後：文字要素と誘目性について復習する		講義 60分 演習 30分	
11	画像編集ソフトによる描画方法を理解する／多様な 2 次元グラフィックツールについて説明する					事前：グラフィックツールについて調べる 事後：ポスターの構成要素について調べる		講義 60分 演習 30分	
12	表現の意図に沿ってポスターを作成する（企画／計画）					事前：課題制作の準備をする 事後：作品を企画する		講義 30分 演習 60分	
13	表現の意図に沿ってポスターを作成する（素材準備）					事前：課題制作の準備をする 事後：課題制作の素材を準備する		講義 30分 演習 60分	
14	表現の意図に沿ってポスターを作成する（制作）					事前：課題制作の準備をする 事後：作品を完成させる		講義 30分 演習 60分	
15	作品相互レビュー／総括					事前：作品を提出する 事後：ポスターについて理解を深める		講義	
教本： 講義内で指示する					参考文献： 講義内で指示する				
成績評価の方法、評価基準： 授業での演習（30%）、小テスト等（30%）、作品制作（40%）で評価する。									
学生へのアドバイス： 3304、2207 以外の教室で実施される場合、ノートパソコンが必要となる。履修希望者が定員を超えた場合、初回授業にて抽選を行う。									
オフィスアワー： 初回講義日に伝える。									

開 講 年 次	2 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修	選 択	単 位 数	2	時 間 数	30	授業形態	講 義
授業科目(英文)	マルチメディア B（映像）（Multimedia B）						科目分類	基礎科目	
担 当 教 員	秋 廣 誠								
履 修 条 件	前提科目	マルチメディア A（画像）							
	そ の 他	この授業では、マルチメディア A（画像） から、さらに発展した広範囲にわたる知識が必要となる。そのため、原則としてマルチメディア A（画像）の単位を修得した学生を対象とし、また、マルチメディア A（画像）の授業目標に達していることが望ましい。							
授業概要： インターネットでの流通を念頭においた、マルチメディア対応の映像を作成するのに必要な知識や手順を理解する。この講義では、主に動画・音声データの処理やアニメーションの作成に関する内容に焦点を当てる。PC を利用して、動画処理に必要な知識や技能を身に付ける。各自が動画作品を制作しインターネット上に公開し、それに関する発表をおこなう。									
授業目標： 動画データやアニメーションの作成に必要な構成要素、技術、手順を説明でき、また、実際に計画的に作成することができる。									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養			
			◎			○			
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態	
1	ガイダンス／マルチメディアについて理解する					事前：シラバスを読む 事後：配布資料を確認する		講義	
2	動画撮影の方法、必要な機材と操作方法を学習する					事前：ノート PC の準備をする 事後：動画編集ソフトの操作方法を復習する		講義 60 分 演習 30 分	
3	動画編集に関する技術を概観する／動画編集ソフトを準備する／タイムラインを理解する					事前：ソフトウェアをインストールする 事後：動画編集ソフトの操作方法を復習する		講義 60 分 演習 30 分	
4	動画編集ソフトを利用して編集技術を学習する ＜編集技法＞カッティングオンアクションを理解する					事前：利用するノート PC の確認をしておく 事後：講義内容を復習する		講義 60 分 演習 30 分	
5	動画編集ソフトを利用して編集技術を学習する ＜編集技法＞カットアウェイ／クロスカットを理解する					事前：利用するノート PC の確認をしておく 事後：講義内容を復習する		講義 60 分 演習 30 分	
6	これまでの講義を踏まえ、小作品を制作する					事前：利用するノート PC の確認をしておく 事後：小作品を完成させる		講義 60 分 演習 30 分	
7	さまざまな編集技法の事例に触れる					事前：利用するノート PC の確認をしておく 事後：各自で編集技法について調べる		講義 60 分 演習 30 分	
8	動画編集ソフトを利用して編集技術を学習する ＜編集技法＞L カット／J カットを理解する					事前：利用するノート PC の確認をしておく 事後：動画編集ソフトの操作方法を復習する		講義 60 分 演習 30 分	
9	講義を踏まえ、小作品を制作する					事前：利用するノート PC の確認をしておく 事後：小作品を完成させる		講義 60 分 演習 30 分	
10	ストップモーションを学習する ピクシレーションを学習する					事前：動画素材を準備する 事後：作品を完成させる		講義 60 分 演習 30 分	
11	プロジェクションマッピングを学ぶ					事前：動画素材を準備する 事後：リアクションペーパーを提出する		講義 60 分 演習 30 分	
12	グループワークにて動画作品を制作する（準備）					事前：グループの企画を共有しておく 事後：動画編集ソフトの操作方法を復習する		講義 60 分 演習 30 分	
13	グループワークにて動画作品を制作する（撮影）					事前：利用するノート PC の確認をしておく 事後：動画編集ソフトの操作方法を復習する		講義 60 分 演習 30 分	
14	グループワークにて動画作品を制作する（編集）					事前：利用するノート PC の確認をしておく 事後：動画編集ソフトの操作方法を復習する		講義 60 分 演習 30 分	
15	課題発表を行う					事前：なし 事後：なし		講義 60 分 演習 30 分	
教本： 講義内で指示する					参考文献： 講義内で指示する				
成績評価の方法、評価基準： 授業での演習（30%）、小テスト等（30%）、作品制作（40%）で評価する。									
学生へのアドバイス：									
オフィスアワー： 初回講義日に伝える。									

開 講 年 次	2 年次 半期	選択・必修	選択	単 位 数	2	時 間 数	30	授業形態	講義
授業科目(英文)	民俗学 (Folklore)						科目分類	専門科目	
担 当 教 員	伊藤 高雄								
履 修 条 件	前提科目	なし							
	そ の 他	なし							
授業概要： 日本の伝統的に受け継がれた民俗文化の諸相を学び、その生成と展開の様を知ることで、多面的なものの見方や創造力を身につける。									
授業目標： 民俗文化に関する基礎知識の修得と、民俗学的な思考方法の修得。									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成				学びに向かう力・人間性の涵養		
○			◎						
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態	
1	ガイダンス 講義の進め方、民俗学の意義を考える					事前：指定資料の予習 事後：授業の復習		講義	
2	柳田國男の民俗学・折口信夫の民俗学を考える					事前：指定資料の予習 事後：授業の復習		講義	
3	ことばの民俗学① 忌み詞と言霊信仰を考える					事前：指定資料の予習 事後：授業の復習		講義と演習	
4	ことばの民俗学② 唱え言と言い慣わしの民俗を考える					事前：指定資料の予習 事後：授業の復習		講義と演習	
5	年中行事の民俗① 春から夏への民俗を考える					事前：指定資料の予習 事後：授業の復習		講義と演習	
6	年中行事の民俗② 秋から冬への民俗を考える					事前：指定資料の予習 事後：授業の復習		講義と演習	
7	人生の民俗① 誕生と成長の民俗を考える					事前：指定資料の予習 事後：授業の復習		講義と演習	
8	人生の民俗② 結婚と死の民俗を考える					事前：指定資料の予習 事後：授業の復習		講義と演習	
9	口承文芸の世界① 神話と伝説を考える					事前：指定資料の予習 事後：授業の復習		講義と演習	
10	口承文芸の世界② 昔話と世間話を考える					事前：指定資料の予習 事後：授業の復習		講義と演習	
11	怪異の民俗① 河童の伝承を考える					事前：指定資料の予習 事後：授業の復習		講義と演習	
12	怪異の民俗② 座敷童と山姥の伝承を考える					事前：指定資料の予習 事後：授業の復習		講義と演習	
13	祭りの民俗学① 西浦田楽から学ぶ					事前：指定資料の予習 事後：授業の復習		講義と演習	
14	祭りの民俗学② 坂部の冬祭りから学ぶ					事前：指定資料の予習 事後：授業の復習		講義と演習	
15	まとめ					事前：指定資料の予習 事後：授業の復習		講義	
教本： なし。プリント配布。					参考文献： 柳田國男全集 折口信夫全集				
成績評価の方法、評価基準： 発表とコメント・カード（50%）、レポート（50%）									
学生へのアドバイス： 予習・復習を行うこと。欠席しないことが大前提となります。最後まで取り組みましょう。									
オフィスアワー： 初回講義日に伝える。									

開 講 年 次	2 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修	選 択	単 位 数	2	時 間 数	30	授業形態	講義
授業科目(英文)	民俗学 (Folklore)						科目分類	専門科目	
担 当 教 員	小林 克								
履 修 条 件	前提科目	なし							
	そ の 他	なし							
授業概要： はじめに民俗学者の生涯と研究を軸に、民俗学の学史と理論、民俗学とはどのような学問かを学ぶ。身近な事例から初め、民俗学の多彩な概念を理解し、具体的調査・研究事例について理解する。日常生活上の民俗についてアンケートや発表を行い、その結果について議論や解説を行う。									
授業目標： 日本民俗学の概要を理解する。 年中行事や人生の様々な儀礼、そして日常生活上の色々な事象について、民俗学的視点から見つめなおせるようになる。									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成				学びに向かう力・人間性の涵養		
○			◎						
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態	
1	ガイダンス 授業の進め方、評価方法の説明。日本民俗学とはどのような学問なのか					事前：自分の食べた正月料理について確認 事後：シラバスの内容確認		講義(60分)、 発表(30分)	
2	日本民俗学の歩み① 柳田国男の生涯と学問。柳田の研究概要を示す。1回のアンケートを発表し、議論					事前：アンケートのまとめと確認 事後：配布資料の内容確認		講義(60分)、 発表・演習(30分)	
3	日本民俗学の歩み② 江戸時代・明治期の調査・研究と南方熊楠、今和次郎。ヨーロッパ民俗学の影響					事前：指定する参考文献の予習 事後：配布資料の内容確認		講義(80分)、 小テスト(10分)	
4	日本民俗学の歩み③ 様々な民俗学研究。折口信夫、宮本常一の研究。渋谷敬三と民具研究の実践					事前：指定する参考文献の予習 事後：配布資料の内容確認		講義(80分)、 小テスト(10分)	
5	民俗学の調査・研究法① 重出立証法、比較研究法、民俗地図、民具地図等について					事前：指定する参考文献の予習 事後：配布資料の内容確認		講義(80分)、 小テスト(10分)	
6	身近な民俗学① 兆し、占い、禁忌(きんき)、呪い(まじない)、時刻、干支など					事前：指定する参考文献の予習 事後：配布資料の内容確認		講義(70分)、 演習(20分)	
7	身近な民俗学② 年中行事。大晦日、正月、節分、七夕、盆等					事前：指定する参考文献の予習 事後：配布資料の内容確認		講義(70分)、 演習(20分)	
8	民俗学の調査・研究法② 民俗学の主要概念である、ハレ、ケ、ケガレ。常民とサンカ。レポート課題提示					事前：指定する参考文献の予習 事後：配布資料の内容確認		講義(80分)、 小テスト(10分)	
9	身近な民俗学③ 人生儀礼 出産、成育、結婚、葬送など					事前：指定する参考文献の予習 事後：配布資料の内容確認		講義(70分)、 演習(20分)	
10	民俗学の調査・研究法③ 関連諸学との関係。歴史学、考古学、人類学、絵画史、建築史等々					事前：指定する参考文献の予習 事後：配布資料の内容確認		講義(70分)、 ディスカッション(20分)	
11	伊豆諸島の生活文化。実際の調査・研究事例から、具体的に伊豆諸島の生活文化の歴史と実態					事前：指定する参考文献の予習 事後：配布資料の内容確認		講義(80分)、 小テスト(10分)	
12	民具研究の方法と実践、成果 発火具、照明具等の民具研究の成果について。レポート課題提示					事前：指定する参考文献の予習 事後：配布資料の内容確認		講義(60分)、 レポート作成(30分)	
13	学生の発表 ① 学生が課題について調べて、発表する					事前：発表の準備とそのレポート作成 事後：レポートの完成		演習(90分)	
14	学生の発表 ② 学生が課題について調べて、発表する					事前：発表の準備とそのレポート作成 事後：レポートの完成		演習(90分)	
15	まとめ 授業全体の振り返りと、質問受け付け、議論					事前：全ての配布資料確認 事後：配布資料の内容確認		講義(45分)、 デスカッション(45分)	
教本： 特にありません。ほぼ毎回資料プリントを配布します。					参考文献： その都度提示する。				
成績評価の方法、評価基準：到達目標が達成できたかを評価する。 授業参加状況等（20%）、小テスト・レポート等（40%）、定期試験（40%）等で総合評価する。									
学生へのアドバイス： 毎回配布する資料プリントで復習してください。小テスト、定期試験はそのプリントから出題する。3回以上の欠席の場合は、公欠等にかかわらず課題を課す。									
オフィスアワー： 初回講義日に伝える。									

開 講 年 次	2 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修	選 択	単 位 数	2	時 間 数	30	授業形態	講義・演習
授業科目(英文)	メディア・アート論 (Topics in Media Art)						科目分類	専門科目	
担 当 教 員	秋廣 誠								
履 修 条 件	前提科目	なし							
	そ の 他	教室によってはノートパソコンが必要である							
授業概要： メディア・アートの位置づけについては諸説あるが、ソフトウェア技術やロボティクス、センサー等を用いた芸術であると説明できる。メディア・アートをめぐる状況や起源、最新の作品事例を学習した上で、実際にソフトウェアを用いて、簡単なメディア・アート作品の制作を試みる。									
授業目標： 1. メディア・アートの起源や潮流を説明できる。 2. 映像／音響メディアの情報を操作し、芸術表現へ応用する方法を説明できる。									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成				学びに向かう力・人間性の涵養		
○			◎						
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態	
1	導入					事前：シラバスを読む 事後：コメントシートの作成		講義：60分 質疑応答：30分	
2	作品事例の研究 a 視覚的な体験の解像度。時間の密度。					事前：資料を下読みする 事後：コメントシートの作成		講義：60分 質疑応答：30分	
3	作品事例の研究 b 光の体験。暗闇の体験。プロジェクションマッピング。					事前：資料を下読みする 事後：コメントシートの作成		講義：60分 質疑応答：30分	
4	作品事例の研究 c 音を視覚する、あるいはその逆、の試み					事前：資料を下読みする 事後：コメントシートの作成		講義：60分 質疑応答：30分	
5	作品事例の研究 d 霧、雲、空気、光 メディアの遍在性					事前：資料を下読みする 事後：コメントシートの作成		講義：60分 質疑応答：30分	
6	作品事例の研究 e 日常風景やニュース映像を切り貼りするだけで、文明批判を想起してしまうのはなぜか					事前：資料を下読みする 事後：コメントシートの作成		講義：60分 質疑応答：30分	
7	作品事例の研究 f ロボティクス。身体とテクノロジー。テクノロジーを以てテクノロジーを批判する。					事前：資料を下読みする 事後：コメントシートの作成		講義：60分 質疑応答：30分	
8	ジョナサン・クレーリーによるテキスト：傍観者、観察、注意					事前：資料を下読みする 事後：コメントシートの作成		講義：60分 質疑応答：30分	
9	TouchDesigner（TD）の導入					事前：資料を下読みする 事後：コメントシートの作成		講義／演習：60分 質疑応答：30分	
10	ジェネレーティブ・プログラミングによる作品事例の紹介					事前：資料を下読みする 事後：コメントシートの作成		講義／演習：60分 質疑応答：30分	
11	TDの基本的な概念とインターフェースの紹介。オーディオ情報の操作。					事前：資料を下読みする 事後：コメントシートの作成		講義／演習：60分 質疑応答：30分	
12	ビジュアルエフェクトの基礎。画像／映像情報の操作。					事前：資料を下読みする 事後：コメントシートの作成		講義／演習：60分 質疑応答：30分	
13	オーディオ解析情報と画像／映像情報との連携。					事前：資料を下読みする 事後：コメントシートの作成		講義／演習：60分 質疑応答：30分	
14	TDとPythonによる、メディア情報へのハック（介入）					事前：資料を下読みする 事後：コメントシートの作成		講義／演習：60分 質疑応答：30分	
15	まとめ					事前：資料を下読みする 事後：コメントシートの作成		講義：60分 質疑応答：30分	
教本： 適宜、参考資料を配布。					参考文献： 授業中に適宜指示する。				
成績評価の方法、評価基準： 授業参加状況等（40％）、小テスト・レポート等（60％）で総合評価する。									
学生へのアドバイス： 3304以外の教室で実施される場合、ノートパソコンが必要となる。									
オフィスアワー： 初回講義日に伝える。									

開 講 年 次	2 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修	選 択	単 位 数	2	時 間 数	30	授業形態	講 義
授業科目(英文)	メディア産業論 (Media Industries)						科目分類	専門科目	
担 当 教 員	高橋 敏哉								
履 修 条 件	前提科目	なし							
	そ の 他	なし							
授業概要： メディアとは何でしょうか？メディアの定義や機能を明らかにし、技術と社会の相互関係に着目しながら、社会学的視点から歴史を辿ります。また個別のメディア（新聞、ラジオ、テレビ、インターネット、音楽等）の産業としての位置づけ、また、そのことから生まれる社会での諸問題についても学んでいきます。									
授業目標： ①メディアとは何かを知る。 ②社会学の視点から各メディアの特徴を知る。									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成				学びに向かう力・人間性の涵養		
○			◎						
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態	
1	オリエンテーション：「メディア」とは何か？					事前：各自の関心を高める 事後：配布教材学習		講義 45分 対話式 45分	
2	「メディア」をなぜ学ぶのか？：3つのメディアの伝えるもの					事前：配布教材学習 事後：配布教材学習		講義 45分 対話式 45分	
3	メディアの誕生？と印刷					事前：教科書指定個所学習 事後：講義復習		講義 45分 対話式 45分	
4	新聞 ①：新聞の歴史とメディアとしての特質					事前：教科書指定個所学習 事後：講義復習		講義 45分 対話式 45分	
5	新聞 ②：新聞産業					事前：教科書指定個所学習 事後：講義復習		講義 45分 対話式 45分	
6	ラジオ ①：ラジオの歴史とメディアとしての特質					事前：教科書指定個所学習 事後：講義復習		講義 45分 対話式 45分	
7	ラジオ ②：ラジオ産業					事前：教科書指定個所学習 事後：指摘箇所確認		講義 45分 対話式 45分	
8	テレビ ①：テレビの歴史とメディアとしての特質					事前：教科書指定個所学習 事後：講義復習		講義 45分 対話式 45分	
9	テレビ ②：テレビ産業					事前：配布教材学習 事後：配布教材学習		講義 45分 対話式 45分	
10	音楽・広告・映画 ①：個々のメディアとしての特質					事前：教科書指定個所学習 事後：配布教材学習		講義 45分 対話式 45分	
11	音楽・広告・映画 ②：個々の産業					事前：配布教材学習 事後：配布教材学習		講義 45分 対話式 45分	
12	インターネット、SNS ①：メディアとしての特質					事前：教科書指定個所学習 事後：指摘箇所確認		講義 45分 対話式 45分	
13	インターネット、SNS ②：ネット産業					事前：配布教材学習 事後：配布教材学習		講義 45分 対話式 45分	
14	メディアの社会への影響					事前：配布教材学習 事後：配布教材学習		講義 45分 対話式 45分	
15	まとめ					事前：配布教材学習 事後：配布教材学習		講義 45分 対話式 45分	
教本：参考文献： 講義時に指定します。必ず購入して下さい。									
成績評価の方法、評価基準： 授業参加状況等（50％）、小テスト・レポート等（50％）で総合評価する。									
学生へのアドバイス： 教科書は講義で使います。購入しない場合は、受講を控えてください（参考文献は特に購入は要りませんが、やや雑学的ですが知識が増えます）。その他、講義での配布物、視聴覚教材等で進行します。									
オフィスアワー： 初回講義日に伝えます。									

開 講 年 次	3 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修	選 択	単 位 数	2	時 間 数	30	授 業 形 態	講 義
授 業 科 目 (英 文)	メディア情報論 (Media and Social Informatics)						科目分類	専門科目	
担 当 教 員	鈴木 秀顕								
履 修 条 件	前提科目	情報処理概論							
	そ の 他	なし							
授業概要： 本講義では、新聞、雑誌、テレビ、ラジオ、インターネット、ソーシャルメディアなど、様々なメディアを対象に、その歴史、役割、表現方法、影響力、倫理、法規制などについて学びます。具体的事例を分析しながら、メディアと社会、メディアと人間の関わりについて多角的に考察し、情報社会の未来を展望します。									
授業目標： 1. メディアに関する基礎知識を習得し、現代社会におけるメディアの役割と影響力を理解する。 2. メディアリテラシーを涵養し、情報を批判的に読み解き、適切に活用する能力を身につける。 3. メディアと社会、メディアと人間の関わりについて多角的に考察し、情報社会の未来を展望する。									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成				学びに向かう力・人間性の涵養		
○			◎						
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態	
1	ガイダンス（メディアとは何か、生成 AI を学ぶ）					事前：なし 事後：議論レポートの作成		講義 45 分 ディスカッション 45 分	
2	「メディアの変遷」について学習した内容をもとに、グループディスカッションを行い、理解を深める。					事前：精読（①2-19） 事後：議論レポートの作成		講義 45 分 ディスカッション 45 分	
3	「ニュースという知」について学習した内容をもとに、グループディスカッションを行い、理解を深める。					事前：精読（①20-38） 事後：議論レポートの作成		講義 45 分 ディスカッション 45 分	
4	「ラジオとプロパガンダ」について学習した内容をもとに、グループディスカッションを行い、理解を深める。					事前：精読（①39-54） 事後：議論レポートの作成		講義 45 分 ディスカッション 45 分	
5	「マスメディア」について学習した内容をもとに、グループディスカッションを行い、理解を深める。					事前：精読（①55-72） 事後：議論レポートの作成		講義 45 分 ディスカッション 45 分	
6	「インターネット」について学習した内容をもとに、グループディスカッションを行い、理解を深める。					事前：精読（①73-91） 事後：議論レポートの作成		講義 45 分 ディスカッション 45 分	
7	「オーディエンス」について学習した内容をもとに、グループディスカッションを行い、理解を深める。					事前：精読（①92-107） 事後：議論レポートの作成		講義 45 分 ディスカッション 45 分	
8	「メディア・コミュニケーション」について学習した内容をもとに、グループディスカッションを行い、理解を深める。					事前：精読（①108-123） 事後：議論レポートの作成		講義 45 分 ディスカッション 45 分	
9	「デジタルメディア」について学習した内容をもとに、グループディスカッションを行い、理解を深める。					事前：精読（①124-141） 事後：議論レポートの作成		講義 45 分 ディスカッション 45 分	
10	「メディア調査分析の基礎」について学習した内容をもとに、グループディスカッションを行い、理解を深める。					事前：精読（①142-159） 事後：議論レポートの作成		講義 45 分 ディスカッション 45 分	
11	「音楽メディア」について学習した内容をもとに、グループディスカッションを行い、理解を深める。					事前：精読（①160-177） 事後：議論レポートの作成		講義 45 分 ディスカッション 45 分	
12	「メディアにおけるジェンダー」について学習した内容をもとに、グループディスカッションを行い、理解を深める。					事前：精読（①178-193） 事後：議論レポートの作成		講義 45 分 ディスカッション 45 分	
13	「労働から見たメディア」について学習した内容をもとに、グループディスカッションを行い、理解を深める。					事前：精読（①194-211） 事後：議論レポートの作成		講義 45 分 ディスカッション 45 分	
14	「地域とメディア」について学習した内容をもとに、グループディスカッションを行い、理解を深める。					事前：精読（①212-231） 事後：議論レポートの作成		講義 45 分 ディスカッション 45 分	
15	「メディアの最先端技術と倫理」について学習した内容をもとに、グループディスカッションを行い、理解を深める。					事前：精読（①232-246） 事後：議論レポートの作成		講義 45 分 ディスカッション 45 分	
教本： 『入門メディア社会学』（ミネルヴァ書房）					参考文献： 『情報メディア論』（講談社） 『ソーシャル・メディア論』（青弓社） 『メディア社会論』（有斐閣ストゥディア） 『教養としての AI 講義』（日経 BP）				
成績評価の方法、評価基準： 授業参加状況等（30%）、小テスト・レポート等（20%）、定期試験（50%）等で総合評価する。									
学生へのアドバイス： 各回のディスカッションをテーマに従って行います。必ず事前にテキストを精読の上、各自考えた上で参加するようにしてください。									
オフィスアワー： 初回講義日に伝える。									

開 講 年 次	2 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修	選 択	単 位 数	2	時 間 数	30	授 業 形 態	講 義
授 業 科 目 (英 文)	モバイルアプリ作成（Creation of Mobile Applications）						科目分類	専門科目	
担 当 教 員	金 宰 郁								
履 修 条 件	前提科目	情報処理概論							
	そ の 他	なし							
授業概要： 情報セキュリティの歴史や、暗号の歴史、認証、ウイルス、電子透かし等の脅威や OS、アプリケーション、プログラミングレベルでのセキュリティ対策等の技術的な対策要素について学ぶ。また、技術演習を行い、実際の対策も経験する。									
授業目標： 情報セキュリティの必要性を理解し、最近の情報セキュリティ技術動向を理解する。									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成				学びに向かう力・人間性の涵養		
◎			○						
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授 業 回 数	授 業 内 容 及 び 計 画（詳細に記入）				事 前 ・ 事 後 学 習（学習課題）			授 業 形 態	
1	ガイダンス、授業科目名であるモバイルアプリ作成について説明する。				事前：教科書の準備をする 事後：情報セキュリティを調べる			講義 80分、ディスカッション 10分	
2	情報セキュリティの考え方、技術の歴史について説明し、その後、課題を行う。				事前：セキュリティ歴史を調べる 事後：セキュリティ歴史を纏める			講義 40分、ディスカッション 30分、課題 20分	
3	情報セキュリティ基礎であるセキュリティの考え方（3要素、時系列、及び管理方法）を学ぶ。その後、課題を行う。				事前：セキュリティ要素を調べる 事後：セキュリティ要素を纏める			講義 40分、ディスカッション 30分、課題 20分	
4	情報セキュリティに対するインシデントの具体例、企業の対策状況を学ぶ。				事前：インシデントを調べる 事後：セキュリティのインシデントを纏める			講義 40分、ディスカッション 30分、課題 20分	
5	情報セキュリティにおける脅威（不正アクセス、ウイルス感染等）について学ぶ。その後、課題を行う。				事前：セキュリティ脅威を調べる 事後：暗号技術を纏める			講義 40分、ディスカッション 30分、課題 20分	
6	情報セキュリティ技術の基礎となる暗号技術について学ぶ。その後、課題を行う。				事前：暗号技術について調べる 事後：暗号技術を纏める			講義 40分、ディスカッション 30分、課題 20分	
7	電子署名、電子認証、及び PKI の方式、運用について学ぶ。その後、課題を行う。				事前：PKI について調べる 事後：電子署名、PKI を纏める			講義 40分、ディスカッション 30分、課題 20分	
8	情報セキュリティ対策（ファイアウォール機能、種類、構成など）について学ぶ。その後、課題を行う。				事前：ファイアウォールを調べる 事後：ファイアウォールを纏める			講義 40分、ディスカッション 30分、課題 20分	
9	情報セキュリティ対策（有効なウイルス対策、SPAM メール対策、及び認証の強化など）について学ぶ。その後、課題を行う。				事前：SPAM メールを調べる 事後：セキュリティ対策を纏める			講義 40分、ディスカッション 30分、課題 20分	
10	侵入技術、DOS 攻撃、実装攻撃について現状と技術について学ぶ。その後、課題を行う。				事前：DOS 攻撃を調べる 事後：セキュリティ攻撃を纏める			講義 40分、ディスカッション 30分、課題 20分	
11	安全なネットワーク構成の考え方について学ぶ。その後、課題を行う。				事前：DMZ について調べる 事後：安全なネットワーク構成を纏める			講義 40分、ディスカッション 30分、課題 20分	
12	情報セキュリティポリシー策定（必要性、概念等）について学ぶ。その後、課題を行う。				事前：セキュリティポリシーを調べる 事後：セキュリティポリシーを纏める			講義 40分、ディスカッション 30分、課題 20分	
13	情報セキュリティの国際標準と法規について学ぶ。その後、課題を行う。				事前：情報セキュリティの国際標準を調べる 事後：情報セキュリティの国際標準を纏める			講義 40分、ディスカッション 30分、課題 20分	
14	クラウドコンピューティングの考え方と情報セキュリティリスクについて学ぶ。その後、課題を行う。				事前：セキュリティリスクを調べる 事後：セキュリティリスクを纏める			講義 20分、ディスカッション 50分、課題 20分	
15	学習内容を纏めて復習し、整理する。情報セキュリティを考えた上でコンピュータの使い方を議論する。				事前：全資料を下読みする。 事後：総合課題を提出する			講義 40分、ディスカッション 50分	
教本： 情報セキュリティ初級公式問題集 全日本情報学習振興協会					参考文献： 情報セキュリティ初級認定試験関連の参考書				
成績評価の方法、評価基準：到達目標が達成できたかを評価する。 授業参加状況等（40%）、課題（30%）、発表（30%）等で総合評価する。									
学生へのアドバイス： 初回の授業に必ず出席すること。情報セキュリティの基礎知識（定義）を事前に調べること。									
オフィスアワー： 初回講義日に伝える。									

開 講 年 次	3 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修	選 択	単 位 数	2	時 間 数	30	授業形態	講 義
授業科目(英文)	幼児・児童期の心理（Psychology of Early Childhood）						科目分類	専門科目	
担 当 教 員	荒木 光								
履 修 条 件	前提科目	なし							
	そ の 他	なし							
授業概要： 幼児期から児童期の発達を、認知・情動・社会性を中心に学ぶ。事例を通して、子どもの行動や心の動きを多面的に理解し、人の成長を支える視点を養う。									
授業目標： 1. 幼児・児童期の発達段階や特徴を理解し、子どもの行動や心理を多面的に捉え、説明できるようになる。 2. 発達理論を通して、人の成長や個性の多様性について理解を深め、将来の対人関係や子どもと関わる場面で役立てられるようになる。 3. 子どもが直面する課題や社会的な影響について、心理学的な視点から考え、自分の意見を持ち、議論できるようになる。									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成				学びに向かう力・人間性の涵養		
◎			○						
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態	
1	「幼児・児童期」の意義					事前：シラバスの確認 事後：復習（1回目の内容）		講義60分 討議30分	
2	発達段階と発達課題（ピアジェの認知発達理論）					事前：予習（2回目の内容） 事後：復習（2回目の内容）		講義60分 討議30分	
3	幼児期の情動発達と愛着形成（ボウルビイの愛着理論）					事前：予習（3回目の内容） 事後：復習（3回目の内容）		講義60分 討議30分	
4	児童期の対人関係と社会性の発達（エリクソンの心理社会的発達理論）					事前：予習（4回目の内容） 事後：復習（4回目の内容）		講義60分 討議30分	
5	言語発達と遊びの重要性					事前：予習（5回目の内容） 事後：復習（5回目の内容）		講義60分 討議30分	
6	発達を支える家族・養育環境の影響					事前：予習（6回目の内容） 事後：復習（6回目の内容）		講義60分 討議30分	
7	発達障害（ASD、ADHD、LD）の理解と援助					事前：予習（7回目の内容） 事後：復習（7回目の内容）		講義60分 討議30分	
8	仲間関係の発達					事前：予習（8回目の内容） 事後：復習（8回目の内容）		講義60分 討議30分	
9	メディアと子どもの発達					事前：予習（9回目の内容） 事後：復習（9回目の内容）		講義60分 討議30分	
10	学習と動機づけの心理学（バンデューラの社会的学習理論）					事前：予習（10回目の内容） 事後：復習（10回目の内容）		講義60分 討議30分	
11	子どもの自己概念の発達					事前：予習（11回目の内容） 事後：復習（11回目の内容）		講義60分 討議30分	
12	文化・地域性と子どもの発達観					事前：予習（12回目の内容） 事後：復習（12回目の内容）		講義60分 討議30分	
13	児童期のストレスとレジリエンス（回復力）					事前：予習（13回目の内容） 事後：復習（13回目の内容）		講義60分 討議30分	
14	事例検討					事前：予習（14回目の内容） 事後：復習（14回目の内容）		講義60分 討議30分	
15	幼児・児童期の心理のまとめ					事前：予習（15回目の内容） 事後：復習（15回目の内容）		講義60分 討議30分	
教本： 使用しない。適宜、参考資料を配布。					参考文献： 「セラピストのための子どもの発達ガイドブック」 誠信書房 ￥3,200				
成績評価の方法、評価基準： 授業参加状況等（40%）、小テスト・レポート等（30%）、定期試験（30%）等で総合評価する。									
学生へのアドバイス： ディスカッションを通して、自分の考えを深め、他の学生の視点にも触れてください。子どもの行動や成長を理解するヒントがたくさんあります。積極的に授業に参加することを期待しています。									
オフィスアワー： 初回講義日に伝える。									

開 講 年 次	1 年 次 半 期	選択・必修	必修	単 位 数	2	時 間 数	30	授業形態	講義
授業科目(英文)	幼児理解 (Understanding Early Childhood Children)						科目分類	専門科目	
担 当 教 員	大沢 裕								
履 修 条 件	前提科目	なし							
	そ の 他	なし							
授業概要： 幼児を理解するためには、まず子どもとはどのような存在かを把握し、幼児期の特徴、幼児の生活の傾向を知る必要がある。本講義では、幼児期の特徴とはどのようなものかを理解させ、一人ひとりの子どもの心情・意欲・態度、個と集団のとらえ方のポイントを教授する。保育現場に立つ学生たちが幼児の内面に何が起こり、どのような思いを抱いているのかに目を向け、発達の課題に即した指導が可能となるよう支援する。具体的な事例を示しつつ、幼児の発達観を習得させ、共感的理解の基礎を培い、実践力を培うよう指導する。授業形態は、講義とグループ討論が主体となる。									
授業目標： 幼児理解のための基礎理論を習得し、具体的な事例を通じて、幼児の発達段階のとらえ方、幼児の遊びや生活、幼児の興味・関心、個と集団を捉える見方を育成する。共感的理解の基礎を培う。									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成				学びに向かう力・人間性の涵養		
			◎				○		
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態	
1	幼児教育のための基本的な幼児理解の必要性…カリキュラムマネジメントの視点から教科書の構造とのつながりが理解できるよう質問時間をとって発言を促す。					事前：授業用ファイル準備 事後：教科書を必ず購入		講義 90 分	
2	3 歳児の発達と理解 1－初めての集団生活・安定から自己発揮まで－ 3 歳児の特徴について発表する。					事前：教科書を読んでおく 事後：プリントに記入		講義 90 分	
3	3 歳児の発達と理解 2－依存から自立へ・自分でできる喜び－ 3 歳児にふさわしい環境について考えを出し合う。					事前：教科書復習 事後：プリント記入		講義 90 分	
4	具体的な発達の捉え方・3 歳児のビデオ視聴後グループ協議し、幼児の気持ちの理解を深め、レポートにまとめる。					事前：プリント記入 事後：レポート完成		講義 60 分・ グループ協議 30 分	
5	4 歳児の発達と理解 1－友達への関心の広がりを視点として－ 4 歳児の特徴について調べてきたことを発表する。					事前：教科書を読んでおく 事後：プリント記入		講義 90 分	
6	4 歳児の発達と理解 2－体験の広がりを視点として－ 4 歳児にふさわしい環境について考えを出し合う。					事前：教科書復習 事後：プリント記入		講義 90 分	
7	幼児の活動に対する肯定的な見方の意義・4 歳児のビデオ視聴後グループ協議し、幼児の気持と教師の援助についてレポートにまとめる。					事前：プリント記入 事後：レポート完成		講義 60 分・ グループ協議 30 分	
8	5 歳児の発達と理解 1－協同性の育ちに向けて－ 5 歳児の特徴について調べてきたことを発表する。					事前：教科書を読んでおく 事後：プリント記入		講義 90 分	
9	5 歳児の発達と理解 2－小学校への接続期の理解に向けて－ 5 歳児にふさわしい環境について考えを出し合う。					事前：教科書復習 事後：プリント記入		講義 90 分	
10	個と集団の関係の捉え方・5 歳児のビデオ視聴後、グループ協議し、幼児の気持ちと教師の援助のあり方についてレポートにまとめる。					事前：プリント記入 事後：レポート完成		講義・グループ協議	
11	幼児の遊び・生活の意味の理解 実際の幼稚園の保育参観を通して気付いたことを発表する。					事前：なし 事後：振り返りをする		保育参観 90 分	
12	教師の姿勢と子どもに対する共感的理解・実践例のビデオ視聴し、幼児の気持ちの理解と教師の援助のあり方について考察しレポートにまとめる。					事前：なし 事後：レポート完成		保育参観 90 分	
13	特別に支援を必要とする子どもの理解・実践例から具体的な環境構成と援助について考える。 環境の工夫からできる支援についてグループで協議し発表する。					事前：実践例を読んでおく 事後：振り返り		講義 60 分・ グループ協議 30 分	
14	保育の改善の視点－保育記録・評価方法の実際－ 様々な保育の記録があることを知る。					事前：教科書を読んでおく 事後：プリントの振り返り		講義 90 分	
15	保護者の心情理解と基礎的な対応の方法について考える。 教科書の事例から考えを出し合う。					事前：教科書を読んでおく 事後：振り返りをする		講義 90 分	
教本：大沢裕『新版 幼児理解』一藝社									
参考文献：『幼保連携型認定こども園教育・保育要領、幼稚園教育要領、保育所保育指針』（最新版）									
成績評価の方法、評価基準： 保育者として持つべき子ども観を修得し、発達段階に即して子どもを把握することができるか、子どもの生活の特徴、個と集団の関係から子どもを理解する基礎力を習得したかを、グループ討議の成果、複数回のレポート内容等、総合的に評価し、平常点も加味する。									
学生へのアドバイス： 3、4、5 歳児の発達段階の違いを学べるよう実際の園でのボランティアなどもおすすめします。									
オフィスアワー： 初回講義日に伝える。									

開 講 年 次	3 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修	選 択	単 位 数	2	時 間 数	30	授 業 形 態	講 義
授 業 科 目 (英 文)	ヨーロッパ観光論（European Tourism Studies）						科目分類	専門科目	
担 当 教 員	安 本 達 式								
履 修 条 件	前提科目	なし							
	そ の 他	なし							
授業概要： ヨーロッパの観光の特性を歴史・文化的背景、観光資源の特性から考察する。									
授業目標： 1. ヨーロッパ観光の特性を理解する。 2. アジアなど他地域との差異を理解する。									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成				学びに向かう力・人間性の涵養		
◎			○						
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授 業 回 数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態	
1	ガイドンス・ヨーロッパ観光論で学ぶことを説明する。					事前：なし 事後：ヨーロッパ観光概観		講義 60分、質疑 20分、 感想コメント記入 10分	
2	【ヨーロッパ観光の歴史と規模】ヨーロッパにおける観光の起こりと発達について解説する。その内容について小テストを行う。					事前：観光史の下調べ 事後：歴史的背景の考察		講義 80分、 小テスト 10分	
3	【ヨーロッパ観光の歴史と規模】ヨーロッパのツーリズム形態の変遷について解説する。その内容について小テストを行う。					事前：観光文化の下調べ 事後：文化的背景の考察		講義 80分、 小テスト 10分	
4	【ヨーロッパ観光の歴史と規模】UNWTOの世界観光指標より、ヨーロッパへの国際観光到達数、観光収入などについて解説する。その内容について小テストを行う。					事前：データの下調べ 事後：ヨーロッパ観光の規模の考察		講義 80分、 小テスト 10分	
5	【ヨーロッパの観光資源の特性】ヨーロッパの観光資源の特性の全体像を解説する。その内容について小テストを行う。					事前：ヨーロッパの風土下調べ 事後：ヨーロッパの観光資源考察		講義 80分、 小テスト 10分	
6	【ヨーロッパの観光資源の特性】ヨーロッパの世界遺産にみる観光資源の特性を解説する。その内容について小テストを行う。					事前：世界遺産の下調べ 事後：歴史的資源の特性考察		講義 80分、 小テスト 10分	
7	【ヨーロッパの観光資源の特性】ヨーロッパの建築様式にみる観光資源の特性を解説する。その内容について小テストを行う。					事前：西洋建築様式の下調べ 事後：文化的資源の特性考察		講義 80分、 小テスト 10分	
8	【ヨーロッパの観光資源の特性】スペイン・パラドールにみる観光資源の特性を解説する。その内容について小テストを行う。					事前：パラドールの下調べ 事後：宿泊施設の特性考察		講義 80分、 小テスト 10分	
9	【ヨーロッパの観光資源の特性】イタリア・アルベルゴ・ディフューゾにみる観光資源の特性を解説する。その内容について小テストを行う。					事前：アルベルゴデフューゾの下調べ 事後：滞在型観光の特性考察		講義 80分、 小テスト 10分	
10	【ヨーロッパの観光資源の特性】ヨーロッパのワインツーリズムにみる観光資源の特性を解説する。その内容について小テストを行う。					事前：ワインツーリズムの下調べ 事後：食と観光の特性考察		講義 80分、 小テスト 10分	
11	【ヨーロッパの観光資源の特性】ヨーロッパの風土と観光資源の特性について、グループワーク等により考察する。					事前：ヨーロッパ観光資源特性のまとめ 事後：風土と資源の特性考察		講義 60分、 グループワーク 30分	
12	【ヨーロッパの観光地の特性】ヨーロッパ観光の最新の取り組みを事例にその特性を解説する。その内容について小テストを行う。					事前：ヨーロッパの国の観光施策の下調べ 事後：観光地形成事例の考察		講義 80分、 小テスト 10分	
13	【ヨーロッパの観光地の特性】ヨーロッパの国の観光振興施策を事例にその特性を解説する。その内容について小テストを行う。					事前：ヨーロッパの観光都市政策の下調べ 事後：観光地形成事例の考察		講義 80分、 小テスト 10分	
14	【ヨーロッパの観光地の特性】ヨーロッパ観光の最新の取り組みを事例にその特性を解説する。その内容について小テストを行う。					事前：ヨーロッパ観光トピック下調べ 事後：これからの観光の考察		講義 80分、 小テスト 10分	
15	まとめ・ヨーロッパ観光の最新事情およびこれまでの学習内容をもとに、今後考えていくべきことをまとめる。					事前：配布プリントの再読 事後：今後の探求方向の考察		講義 70分、 小レポート 20分	
教本： 各回プリント配布					参考文献： 適宜紹介				
成績評価の方法、評価基準： 授業参加状況等（20%）、小テスト・レポート等（20%）、定期試験（60%）等で総合評価する。									
学生へのアドバイス： 観光の背景となる歴史や文化の違いに着目し、ヨーロッパの観光の魅力を考えてください。									
オフィスアワー： 初回講義日に伝える。									

開 講 年 次	2 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修	選 択	単 位 数	2	時 間 数	30	授業形態	講義
授業科目(英文)	ヨーロッパ文化研究 A (European Studies A)						科目分類	専門科目	
担 当 教 員	廣 本 和 枝								
履 修 条 件	前提科目	なし							
	そ の 他	なし							
授業概要： ヨーロッパの文化について書かれたテキストを読み考えます。また、毎回英国の歴史・文化に焦点を当てたワークシートを配布しますので、その穴埋め作業をしながら、各項目の要約を完成します。									
授業目標： ヨーロッパへの理解を深めることが目標です。テキストとハンドアウトは英語で書かれていますので、英語を読むことに親しむのも目標です。									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成				学びに向かう力・人間性の涵養		
			○				◎		
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態	
1	Introduction to Europe					事前：テキスト 事後：ハンドアウト		講義45分 ワークシート記入45分	
2	Europe: 1. In the Beginning, 2. A Continent of Differences 3. Light in Europe					事前：テキスト 事後：ハンドアウト		講義45分 ワークシート記入45分	
3	Europe: 4. The Classical Tradition 5. The Christian Tradition					事前：テキスト 事後：ハンドアウト		講義45分 ワークシート記入45分	
4	Italy: 1. A World of Yesterday and Tomorrow 2. Rome					事前：テキスト 事後：ハンドアウト		講義45分 ワークシート記入45分	
5	Italy: 3. The Land of Art					事前：テキスト 事後：ハンドアウト		講義45分 ワークシート記入45分	
6	Italy: 4. Life Italian-Style					事前：テキスト 事後：ハンドアウト		講義45分 ワークシート記入45分	
7	France: 1. The Land of Many Loves 2. A Metting Place for Many People					事前：テキスト 事後：ハンドアウト		講義45分 ワークシート記入45分	
8	France: 3. Empires and Revolution 4. The Land of Love					事前：テキスト 事後：ハンドアウト		講義45分 ワークシート記入45分	
9	France: 5. The French and the Rest of the World					事前：テキスト 事後：ハンドアウト		講義45分 ワークシート記入45分	
10	Spain: 1. A Land of Surprises 2. The Moors Arrive from Africa					事前：テキスト 事後：ハンドアウト		講義45分 ワークシート記入45分	
11	Spain: 3. 1492; Birth of an Empire 4. The "Fire" of Spain 5. Neighbors on the Peninsula					事前：テキスト 事後：ハンドアウト		講義45分 ワークシート記入45分	
12	The British Isles: 1. Tea Time 2. Two Cousins and an Empire 3. England: A Land of Living Tradition					事前：テキスト 事後：ハンドアウト		講義45分 ワークシート記入45分	
13	The British Isles: 4. Wales and Scotland 5. Ireland: The Emerald Isle					事前：テキスト 事後：ハンドアウト		講義45分 ワークシート記入45分	
14	The Benelux Countries: 1. Hans Brinker: Symbol of Holland 2. Holland: A land of Many Surprises					事前：テキスト 事後：ハンドアウト		講義45分 ワークシート記入45分	
15	The Benelux Countries: 3. Holland and her Neighbors 4. The Benelux Countries					事前：テキスト 事後：ハンドアウト		講義45分 ワークシート記入45分	
教本： Understanding Europe Joan McConnell 金星堂 ￥1,900(税別) ISBN978-4-7647-0587-6									
参考文献： 『ヨーロッパとは何か』 増田四郎 岩波文庫 ￥700(税別)									
成績評価の方法、評価基準： 授業参加状況（40%）、定期試験（60%）等で総合評価する。									
学生へのアドバイス： 絵画を見て視覚的に西欧の文化をとらえたり、また音楽を聴いたりすることも、西欧のものの見方を楽しく理解し興味を持つ動機付けになると思います。									
オフィスアワー： 初回講義日に伝える。									

開 講 年 次	2 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修	選 択	単 位 数	2	時 間 数	30	授業形態	講 義
授業科目(英文)	ヨーロッパ文化研究B（European Studies B）						科目分類	専門科目	
担 当 教 員	廣 本 和 枝								
履 修 条 件	前提科目	なし							
	そ の 他	なし							
授業概要： ヨーロッパの文化について書かれたテキストを読み考えます。また、毎回英国の歴史・文化に焦点を当てたワークシートを配布しますので、その穴埋め作業をしながら、各項目の要約を完成します。									
授業目標： ヨーロッパへの理解を深めることが目標です。テキストとハンドアウトは英語で書かれていますので、英語を読むことに親しむのも目標です。									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成				学びに向かう力・人間性の涵養		
			○				◎		
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態	
1	Introduction to Englishes: 「英語はどこ国のことば？」					事前：テキスト 事後：ハンドアウト		講義45分 ワークシート記入45分	
2	Scandinavia: 1. The Northmen: Fury and Adventure 2. Denmark 3. Norway					事前：テキスト 事後：ハンドアウト		講義45分 ワークシート記入45分	
3	Scandinavia: 4. Sweden 5. Lapland and Finland					事前：テキスト 事後：ハンドアウト		講義45分 ワークシート記入45分	
4	Switzerland and Austria: 1. The Cathedrals of Nature					事前：テキスト 事後：ハンドアウト		講義45分 ワークシート記入45分	
5	Switzerland and Austria: 2. The Land of Mountain Liberty 3. Switzerland and the World					事前：テキスト 事後：ハンドアウト		講義45分 ワークシート記入45分	
6	Switzerland and Austria: 4. Similar Yet Different					事前：テキスト 事後：ハンドアウト		講義45分 ワークシート記入45分	
7	Germany: 1. The Germans against the Romans 2. Quest for an Empire 3. German People					事前：テキスト 事後：ハンドアウト		講義45分 ワークシート記入45分	
8	Germany: 4. The German Gifts to the World 5. 2000 Years Later					事前：テキスト 事後：ハンドアウト		講義45分 ワークシート記入45分	
9	Eastern Europe: 1. The U.S. S.					事前：テキスト 事後：ハンドアウト		講義45分 ワークシート記入45分	
10	Eastern Europe: 2. Seven New Nations in Eastern Europe 3. Poland					事前：テキスト 事後：ハンドアウト		講義45分 ワークシート記入45分	
11	Eastern Europe: 4. Hungary and Czechoslovakia 5. Rumania and Bulgaria 6. Yugoslavia and Albania					事前：テキスト 事後：ハンドアウト		講義45分 ワークシート記入45分	
12	Greece and Turkey: 1. Voices of Glory 2. Greek Culture					事前：テキスト 事後：ハンドアウト		講義45分 ワークシート記入45分	
13	Greece and Turkey: 3. Greece Moves East 4. Turkey Looks West 5. Back to the Beginning					事前：テキスト 事後：ハンドアウト		講義45分 ワークシート記入45分	
14	European Unification: 1. A Cold Wind Turns Warm 2. Memoires of Imperial Glory					事前：テキスト 事後：ハンドアウト		講義45分 ワークシート記入45分	
15	European Unification: 3. Citizens of the World					事前：テキスト 事後：ハンドアウト		講義45分 ワークシート記入45分	
教本： Understanding Europe Joan McConnell 金星堂 ￥1,900(税別) ISBN978-4-7647-0587-6									
参考文献： 『ヨーロッパとは何か』増田四郎 岩波文庫 ￥700(税別)									
成績評価の方法、評価基準： 授業参加状況（40%）、定期試験（60%）等で総合評価する。									
学生へのアドバイス： ハンドアウトはできるだけ前もって配布するようにしますので、目を通してよくわからないところに印をつけて授業に臨んでもらえれば、と思います。									
オフィスアワー： 初回講義日に伝える。									

開 講 年 次	1 年次 半期	選択・必修	選択	単 位 数	2	時 間 数	30	授業形態	講義
授業科目(英文)	吉田松陰論（The Philosophy of Yoshida Shoin）						科目分類	基礎科目	
担 当 教 員	増田 裕彦								
履 修 条 件	前提科目	なし							
	そ の 他	なし							
授業概要： 本学の教育理念である「知行合一」を実践した吉田松陰は、わずか三〇歳でこの世を去った。しかし、松下村塾において維新の芽を育て、多くの志士を世に送り出し、短くとも多くのことを成した松陰の生涯から、「知行合一」とは何か、「教育」とは何かを思考するとともに、本学で学ぶ意義と誇りを修得する。									
授業目標： 吉田松陰の教育について理解し、松下村塾から輩出した志士や明治期の指導者を確認し、幕末の歴史を振り返ります。									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成				学びに向かう力・人間性の涵養		
○							◎		
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）						事前・事後学習(学習課題)		授業形態
1	ガイダンス 松蔭大学の建学精神と理念 「知行合一」 ■松陰が教えてくれること。■指導者の輩出						事前：なし 事後：なし		講義 90 分
2	毛利氏と厚木のかかわり あまり知られていない毛利氏の始祖と厚木のかかわりについて紹介します						事前：なし 事後：なし		講義 90 分
3	生い立ちと修業時代 山鹿流兵学師範杉家と吉田家 六歳で吉田家を継ぎ山鹿流兵学を習う。■松陰の誕生と藩校への出仕について						事前：なし 事後：なし		講義 90 分
4	脱藩と密航 武士の一諾を貫くことによって脱藩、そして密航に至るまでをふりかえる。 ■遊学と脱藩 西洋兵学、軍学、海外情勢を知る						事前：なし 事後：なし		講義 90 分
5	獄中教育から生まれた『講孟余話』野山獄によって教育への覚醒。 そして「松下村塾」へ						事前：なし 事後：なし		講義 90 分
6	「松下村塾」誕生～理念と教育 ① ■松下村塾の人の育て方 ■「知行合一」の教え ■個性を伸ばす						事前：なし 事後：なし		講義 90 分
7	「松下村塾」誕生～理念と教育 ② ■「師弟同行」の教育 ■志が最も大切 ■学問のめざすものは						事前：なし 事後：なし		講義 90 分
8	松下村塾の「四天王」久坂玄瑞・高杉晋作・吉田稔麿・入江九一 玄瑞と文 孤独な玄瑞と松陰の妹の婚姻						事前：なし 事後：なし		講義 90 分
9	安政の大獄 大老井伊直弼による幕府の立て直しと反幕府勢力への打撃について						事前：なし 事後：なし		講義 90 分
10	老中暗殺計画と「草莽崛起」 無勅許の日米修好条約から諫幕から倒幕へ、そして老中間部詮勝暗殺を計画。						事前：なし 事後：なし		講義 90 分
11	幕府奉行を震撼させた自白 取り調べ内容と幕府は掌握していなかった計画						事前：なし 事後：なし		講義 90 分
12	門下生への遺書としての『留魂録』読み解くための松陰の一生をおさらい						事前：なし 事後：なし		講義 90 分
13	松陰の名言 20						事前：なし 事後：なし		講義 90 分
14	維新に活躍した門下生たち ①伊藤博文 ②山形有朋 ④楫取素彦 友人 桂小五郎(木戸孝允)						事前：なし 事後：なし		講義 90 分
15	近代日本への変革と松陰の思想とまとめ						事前：なし 事後：なし		講義 90 分
教本： プリント及び『看護師のための松陰流人材育成術』長谷川勤著・日本医療企画 ¥1.650					参考文献： 『松陰と幕末・明治の志士たち』長谷川勤著・NHK 出版 『留魂録』古川薫著・講談社学術文庫				
成績評価の方法、評価基準：到達目標が達成できたかを評価する。 授業参加状況等（40％）、小テスト・レポート等（30％）、定期試験（30％）等で総合評価する。									
学生へのアドバイス： レポート提出も大きな評価対象です。忘れないように。									
オフィスアワー： 初回講義日に伝える。									

開 講 年 次	4 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修	選 択	単 位 数	2	時 間 数	30	授業形態	講 義
授業科目(英文)	リスク心理学 (Psychology of Risk Perception of Human Behavior)						科目分類	専門科目	
担 当 教 員	深澤 伸幸								
履 修 条 件	前提科目	なし							
	そ の 他	なし							
授業概要： 新聞やテレビ等のマスメディアでは、大地震の発生のリスクや金融リスク等が日々報じられ、自然環境や社会・政治場面、あるいは企業組織が内在するリスクから、人間一人一人が行う判断過程や行動面に対しても「リスク」という言葉が用いられている。本授業では、各個人が行う判断過程や行動を起こす際に生じる「リスク」を取り上げ、その構造を考える。授業形式は、講義を主体とするが、随時、討議や実習を含んで「分かる授業」を目指す。									
授業目標： ①「リスク」に関する定義や考え方が理解できる。②リスクに対する主観的な評価・見積もり（risk perception）の仕組みが理解できる。③リスクに対する認知から、リスク軽減やリスク回避の仕組みが理解できるまでを、到達目標とする。									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成				学びに向かう力・人間性の涵養		
○			◎						
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態	
1	オリエンテーション（評価方法と学び方）を行う。					事前：シラバスを読むこと 事後：シラバスの確認		講義 70分、ディスカッション 20分	
2	社会現象として生じるリスクとは何か、リスクの種類を学び理解する。					事前：予習に取り組む 事後：授業終了直前に授業内容確認のために振り返りシートに記述する。		講義 60分、ディスカッション 10分、PBL 20分	
3	組織が抱えるリスク、すなわち組織過誤の事例を基に企業組織に潜在するリスクを理解する。					事前：予習に取り組む 事後：授業終了直前に授業内容確認のために振り返りシートに記述する。		講義 60分、ディスカッション 10分、PBL 20分	
4	産業場面で発生する労働災害の推移を学ぶと共に、企業トップが冒す判断誤りの過程を理解する。					事前：予習に取り組む 事後：授業終了直前に授業内容確認のために振り返りシートに記述する。		講義 60分、ディスカッション 10分、PBL 20分	
5	産業場面では多くの人が協同して働いており、対人関係からくる衝突（対人関係がもたらすリスク）を回避するためには、各人の性格やパーソナリティ特性とは何かを学び理解する。					事前：予習に取り組む 事後：授業終了直前に授業内容確認のために振り返りシートに記述する。		講義 60分、ディスカッション 10分、PBL 20分	
6	産業場面においては、事故が少ない人と事故を引き起こすことが多い人がいる。事故多発者のパーソナリティ特性を理解すると共に、多面評価法（自己評価法と他者評価法）を用いて、各人のパーソナリティの評価を実習・体験する。					事前：予習に取り組む 事後：授業終了直前に授業内容確認のために振り返りシートに記述する。		講義 60分、ディスカッション 10分、PBL 20分	
7	「安全」と「リスク」の定義を考えることに加え、実際に産業場面で使用されている active safety、passive safety の定義と方法を理解する。					事前：予習に取り組む 事後：授業終了直前に授業内容確認のために振り返りシートに記述する。		講義 60分、ディスカッション 10分、PBL 20分	
8	ヒューマンエラーの発生過程を認知心理学の視点から、大脳で行われている内部情報処理過程の働きを理解する。					事前：予習に取り組む 事後：授業終了直前に授業内容確認のために振り返りシートに記述する。		講義 60分、ディスカッション 10分、PBL 20分	
9	連続作業の下で生じる「注意—不注意」のあり方を学び、我々が行う注意行動に潜むリスクを理解する。					事前：予習に取り組む 事後：授業終了直前に授業内容確認のために振り返りシートに記述する。		講義 60分、ディスカッション 10分、PBL 20分	
10	受動的知覚と能動的知覚の働きを学び、我々が環境を見ていく際の目の配り方と情報摂取のあり方を理解する。					事前：予習に取り組む 事後：授業終了直前に授業内容確認のために振り返りシートに記述する。		講義 60分、ディスカッション 10分、PBL 20分	
11	我々が見ている世界を意味づける際に重要となる記憶の仕組みと構造を学ぶ。初めに記憶の仕組みを理解するために系列位置効果に関する実験を行い、記憶の仕組みの一端を理解する。					事前：予習に取り組む 事後：授業終了直前に授業内容確認のために振り返りシートに記述する。		講義 60分、ディスカッション 10分、PBL 20分	
12	記憶に係る諸説と共に、記憶の仕組み・構造、並びに忘却の仕組みを学び理解する。					事前：予習に取り組む 事後：授業終了直前に授業内容確認のために振り返りシートに記述する。		講義 60分、ディスカッション 10分、PBL 20分	
13	連続作業の下で生じる生理的な変動要因を、サーカディアンリズムに連動する大脳覚醒水準の低下が事故を引き起こすリスク要因であることを理解する。加えて、履修生各自が体験した失敗事例を記述し、レポートとして提出する（宿題）。					事前：予習に取り組む 事後：授業終了直前に授業内容確認のために振り返りシートに記述する。		講義 60分、ディスカッション 10分、PBL 20分	
14	行動変容をもたらす集団訓練方法を学び、そこで用いられる手続き・方法を理解する。					事前：予習に取り組む 事後：授業終了直前に授業内容確認のために振り返りシートに記述する。		講義 60分、ディスカッション 10分、PBL 20分	
15	まとめ・全体を振り返る					事前：すべてのテーマを整理・確認する 事後：全体を復習する		講義 70分、ディスカッション 20分	

教本：	参考文献：
授業内で指示	
成績評価の方法、評価基準：到達目標が達成できたかを評価する。 小テスト・レポート等（40％）、定期試験（60％）等で総合評価する。	
学生へのアドバイス： 欠席回数が全体の1／3を超える場合には、受験しても評価しないので注意すること。	
オフィスアワー： 初回講義日に伝える。	

開 講 年 次	3 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修	選 択	単 位 数	2	時 間 数	30	授業形態	講 義
授業科目(英文)	旅行会社経営論Ⅰ（Travel Business ManagementⅠ）						科目分類	専門科目	
担 当 教 員	大 井 功								
履 修 条 件	前提科目	なし							
	そ の 他	なし							
授業概要： 映像でイメージを掴み、旅行業現状を理解し、新たなビジネスモデルを模索する。									
授業目標： 旅行業の経営がわかり、新たな発展の方策を考える。									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得				思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養		
○				◎					
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態	
1	オリエンテーション					事前：なし 事後：配布プリントを読む		講義 90分	
2	旅行業の成り立ち（Ⅰ）： 近代旅行業、業界勢力図、業界トレンドなどを考察し、討議する。					事前：参考文献・類書を読む 事後：配布プリントを読む		講義 50分、 映像 20分、討議 20分	
3	旅行業の成り立ち（Ⅱ）： 旅行業法、企画旅行と手配旅行の違いを考察し、討議する。					事前：参考文献・類書を読む 事後：配布プリントを読む		講義 50分、 映像 20分、討議 20分	
4	旅行業の成り立ち（Ⅲ）： 旅行企画、ソリューション営業、イベント・コンベンションなどを考察し、討議する。					事前：参考文献・類書を読む 事後：配布プリントを読む		講義 50分、 映像 20分、討議 20分	
5	旅行業の成り立ち（Ⅳ）： 旅行業のやりがい、転職・独立、職種などについて考察し、討議する。					事前：参考文献・類書を読む 事後：配布プリントを読む		講義 50分、 映像 20分、討議 20分	
6	旅行業界がわかる（Ⅰ）： 国内・海外旅行市場、個人旅行、団体旅行、訪日外国人旅行、ネット販売などを考察し、討議する。					事前：参考文献・類書を読む 事後：配布プリントを読む		講義 50分、 映像 20分、討議 20分	
7	旅行業界がわかる（Ⅱ）： パッケージ旅行、格安航空券、多角化経営、業界概略などを考察し、討議する。					事前：参考文献・類書を読む 事後：配布プリントを読む		講義 50分、 映像 20分、討議 20分	
8	旅行業界がわかる（Ⅲ）： 専門特化型旅行社、ネット旅行社、楽天トラベル、HISなどを考察し、討議する。					事前：参考文献・類書を読む 事後：配布プリントを読む		講義 50分、 映像 20分、討議 20分	
9	旅行業界がわかる（Ⅳ）： クルーズ、ロングステイ、海外旅行先ランキングなどを考察し、討議する。					事前：参考文献・類書を読む 事後：配布プリントを読む		講義 50分、 映像 20分、討議 20分	
10	旅行業界がわかる（Ⅴ）： ロケ地巡り、海外ウエディング、スポーツ観戦、バリアフリーなどを考察し、討議する。					事前：参考文献・類書を読む 事後：配布プリントを読む		講義 50分、 映像 20分、討議 20分	
11	旅行業界がわかる（Ⅵ）： シニアツアー、新コンセプト旅行、チャーター便、インターネット直販などを考察し、討議する。					事前：参考文献・類書を読む 事後：配布プリントを読む		講義 50分、 映像 20分、討議 20分	
12	旅行業界がわかる（Ⅶ）： バーチャルカウンター、ダイナミックパッケージ、エクスペディア、グローバル観光戦略などを考察し、討議する。					事前：参考文献・類書を読む 事後：配布プリントを読む		講義 50分、 映像 20分、討議 20分	
13	クラブツーリズムの経営（Ⅰ）： 旅の通販、添乗の活用などを考察し、討議する。					事前：参考文献・類書を読む 事後：配布プリントを読む		講義 50分、 映像 20分、討議 20分	
14	クラブツーリズムの経営（Ⅱ）： 同社のデータマーケティング、旅の友、ミッション経営、企業の社会貢献などを考察し、討議する。					事前：参考文献・類書を読む 事後：配布プリントを読む		講義 50分、 映像 20分、討議 20分	
15	星野リゾート研究： ホテル、旅館の経営立て直しのための戦略を研究し、討議する。					事前：参考文献・類書を読む 事後：配布プリントを読む		講義 50分、 映像 20分、討議 20分	
教本： プリントを配布する。					参考文献： 廣岡裕一他著「変化する旅行ビジネス」文理閣 ￥2,000+税				
成績評価の方法、評価基準：到達目標が達成できたかを評価する。 平常点（授業参画度、小テスト等）（40％）、定期試験（60％）等									
学生へのアドバイス： 楽しく学ばなければ観光は学べない。									
オフィスアワー： 初回講義日に伝える。									

開 講 年 次	3 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修	選 択	単 位 数	2	時 間 数	30	授業形態	講 義
授業科目(英文)	旅行会社経営論Ⅱ（Travel Business Management Ⅱ）						科目分類	専門科目	
担 当 教 員	大 井 功								
履 修 条 件	前提科目	旅行業論Ⅰを同時履修か、過去に履修したことがある。							
	そ の 他	なし							
授業概要： 映像でイメージを掴み、旅行業現状を理解し、新たなビジネスモデルを模索するために討議する。									
授業目標： 旅行業の経営がわかり、新たな発展の方策を考える。									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養			
○			◎						
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態	
1	旅行企画の方法 (Ⅰ)： 海外旅行の未来戦略、観光立国、ツアープランナー、脱価格競争などを考察し、討議する。					事前：なし 事後：配布プリントを読返す		講義 50分、 映像 20分、討議 20分	
2	旅行企画の方法 (Ⅱ)： 情報収集、現地調査、SIT、政府観光局との共働などを考察し、討議する。					事前：参考文献・類書を読む 事後：配布プリントを読返す		講義 50分、 映像 20分、討議 20分	
3	旅行企画の方法 (Ⅲ)： パッケージツアーの創り方、理性と感情に訴える旅行パンフレットの作り方などを考え発表する。					事前：参考文献・類書を読む 事後：配布プリントを読返す		講義 50分、 映像 20分、討議 20分	
4	旅行企画の方法 (Ⅳ)： 顧客満足、広報活動、ツアコン、ツアー価格などを考察し、討議する。					事前：参考文献・類書を読む 事後：配布プリントを読返す		講義 50分、 映像 20分、討議 20分	
5	旅行企画の方法 (Ⅴ)： 日本人の英語、観光局との共働、コミュニティ・ツーリズム、サステナブル・ツーリズムなどを考察し、討議する。					事前：参考文献・類書を読む 事後：配布プリントを読返す		講義 50分、 映像 20分、討議 20分	
6	訪日外国人ビジネス： 日本のインバウンド、観光立国、クールジャパン、ゴールデンルートなどを考察し、討議する。					事前：参考文献・類書を読む 事後：配布プリントを読返す		講義 50分、 映像 20分、討議 20分	
7	ビジネスモデル (Ⅰ)： メディア販売、航空のグローバルアライアンスなどを考察し、討議する。					事前：参考文献・類書を読む 事後：配布プリントを読返す		講義 50分、 映像 20分、討議 20分	
8	ビジネスモデル (Ⅱ)： JTBの世界戦略を考察し、討議する。					事前：参考文献・類書を読む 事後：配布プリントを読返す		講義 50分、 映像 20分、討議 20分	
9	ビジネスモデル (Ⅲ)： 店頭販売における低価格販売、付加価値創造、経験価値マーケティングなどを考察し、討議する。					事前：参考文献・類書を読む 事後：配布プリントを読返す		講義 50分、 映像 20分、討議 20分	
10	ビジネスモデル (Ⅳ)： メディカル・ツーリズム、まちづくりなどを考察し、討議する。					事前：参考文献・類書を読む 事後：配布プリントを読返す		講義 50分、 映像 20分、討議 20分	
11	ビジネスモデル (Ⅴ)： ホテル、テーマパーク、癒しブームなどを考察し、討議する。					事前：参考文献・類書を読む 事後：配布プリントを読返す		講義 50分、 映像 20分、討議 20分	
12	カジノ運営： インテグレイテッド・リゾート、カジノ解禁のメリット・デメリットを考え、討議する。					事前：参考文献・類書を読む 事後：配布プリントを読返す		講義 50分、 映像 20分、討議 20分	
13	イベント&コンベンション (Ⅰ)： 国際会議と博覧会、ショーオーガナイザー、博覧会プロデューサーなどを考察し、討議する。					事前：参考文献・類書を読む 事後：配布プリントを読返す		講義 50分、 映像 20分、討議 20分	
14	イベント&コンベンション (Ⅱ)： MICE 市場、PCO、イベント・オーガナイザーなどを考察し、討議する。					事前：参考文献・類書を読む 事後：配布プリントを読返す		講義 50分、 映像 20分、討議 20分	
15	旅行業の課題： 市場の変化、成熟社会、マストツーリズムなどを考察し、討議する。					事前：参考文献・類書を読む 事後：配布プリントを読返す		講義 50分、 映像 20分、討議 20分	
教本： プリントを配布する。					参考文献： 廣岡裕一他著「変化する旅行ビジネス」文理閣 ￥2,000＋税				
成績評価の方法、評価基準：到達目標が達成できたかを評価する。 平常点（授業参画度、小テスト等）（40%）、定期試験（60%）等									
学生へのアドバイス： 楽しく学ばなければ観光は学べない。									
オフィスアワー： 初回講義日に伝える。									

開 講 年 次	2 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修	選 択	単 位 数	2	時 間 数	30	授業形態	講義
授業科目(英文)	旅行業務基礎Ⅰ（Travel Business BasicsⅠ）						科目分類	専門科目	
担 当 教 員	大 井 功								
履 修 条 件	前提科目	なし							
	そ の 他	なし							
授業概要： ・解説し、過去の問題を解きながら理解を深める。 ・観光のしくみを学び、自力で調査する能力を身につける。									
授業目標： 毎年9月に行われる国家試験「国内旅行業務取扱管理者試験」合格基準点の取れるレベルの知識と理解力を持つことを目指す。									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成				学びに向かう力・人間性の涵養		
◎							○		
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態	
1	オリエンテーション					事前：なし 事後：なし		講義 90分	
2	旅行業法を理解し、グループで問題を解く					事前：なし 事後：資料の精読		講義 50分、 映像 20分、小テスト 20分	
3	「日本の祭り」の特徴を知り、理解度をチェックする					事前：なし 事後：資料の精読		講義 50分、 映像 20分、小テスト 20分	
4	旅行業約款を理解し、グループで問題を解く					事前：なし 事後：資料の精読		講義 50分、 映像 20分、小テスト 20分	
5	「日本の伝統工芸品」の特徴を知り、理解度をチェックする					事前：なし 事後：資料の精読		講義 50分、 映像 20分、小テスト 20分	
6	運送・宿泊約款を理解し、グループで問題を解く					事前：なし 事後：資料の精読		講義 50分、 映像 20分、小テスト 20分	
7	「ラムサール条約」を理解し、理解度をチェックする					事前：なし 事後：資料の精読		講義 50分、 映像 20分、小テスト 20分	
8	鉄道の運賃規則を理解し、問題を解く					事前：なし 事後：資料の精読		講義 50分、 映像 20分、小テスト 20分	
9	「日本の世界遺産」を知り、理解度をチェックする					事前：なし 事後：資料の精読		講義 50分、 映像 20分、小テスト 20分	
10	JR 運賃・料金を理解し、理解度をチェックする					事前：なし 事後：資料の精読		講義 50分、 映像 20分、小テスト 20分	
11	「日本の文学作品」を知り、理解度をチェックする					事前：なし 事後：資料の精読		講義 50分、 映像 20分、小テスト 20分	
12	宿泊・フェリー・バスの規則を理解し、問題を解く					事前：なし 事後：資料の精読		講義 50分、 映像 20分、小テスト 20分	
13	「陶磁器・漆器」を知り、理解度をチェックする					事前：なし 事後：資料の精読		講義 50分、 映像 20分、小テスト 20分	
14	国内航空の規則を理解し、問題を解く					事前：なし 事後：資料の精読		講義 50分、 映像 20分、小テスト 20分	
15	「郷土料理・特産品」を知り、理解度をチェックする					事前：なし 事後：資料の精読		講義 50分、 映像 20分、小テスト 20分	
教本： 講義時にプリントを配布する。					参考文献： 授業時に随時紹介する。				
成績評価の方法、評価基準：到達目標が達成できたかを評価する。 定期試験（60％）、平常点（40％）で総合評価する。									
学生へのアドバイス： 復習を行うこと、欠席をしないことを希望します。									
オフィスアワー： 初回講義日に伝える。									

開 講 年 次	2 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修	選 択	単 位 数	2	時 間 数	30	授 業 形 態	講 義
授 業 科 目 (英 文)	旅 行 業 務 基 礎 Ⅱ (Travel Business Basics Ⅱ)						科 目 分 類	専 門 科 目	
担 当 教 員	大 井 功								
履 修 条 件	前 提 科 目	な し							
	そ の 他	な し							
授 業 概 要： 解 説 し、過 去 の 問 題 を 解 き な が ら 理 解 を 深 め る。									
授 業 目 標： 「総合旅行業務取扱管理者試験」の「海外旅行実務」を取り上げ、国家試験の合格を目指す。									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知 識 ・ 技 能 の 習 得			思 考 力 ・ 判 断 力 ・ 表 現 力 の 育 成				学 び に 向 か う 力 ・ 人 間 性 の 涵 養		
◎							○		
授 業 計 画、事 前 学 習 ・ 事 後 学 習、形 式									
授 業 回 数	授 業 内 容 及 び 計 画 (詳 細 に 記 入)					事 前 ・ 事 後 学 習 (学 習 課 題)		授 業 形 態	
1	オリエンテーション アメリカ・カナダの観光資源を知り、理解度をチェックする					事前：なし 事後：なし		講義 50分、 映像 20分、小テスト 20分	
2	国際航空運賃 旅券法を理解し、理解度をチェックする					事前：なし 事後：資料の精読		講義 50分、 映像 20分、小テスト 20分	
3	出入国法令と実務 1 アジアの観光資源を知り、理解度をチェックする					事前：なし 事後：資料の精読		講義 50分、 映像 20分、小テスト 20分	
4	出入国法令と実務 2 入管法・検疫法を理解し、理解度をチェックする					事前：なし 事後：資料の精読		講義 50分、 映像 20分、小テスト 20分	
5	出入国法令と実務 3 アジアの観光資源を知り、理解度をチェックする					事前：なし 事後：資料の精読		講義 50分、 映像 20分、小テスト 20分	
6	海外旅行実務 1 通関に関する規則を理解し、理解度をチェックする					事前：なし 事後：資料の精読		講義 50分、 映像 20分、小テスト 20分	
7	海外観光地理 1 欧州の観光資源を知り、理解度をチェックする					事前：なし 事後：資料の精読		講義 50分、 映像 20分、小テスト 20分	
8	海外旅行実務 2 出入国手続きを知り、理解度をチェックする					事前：なし 事後：資料の精読		講義 50分、 映像 20分、小テスト 20分	
9	海外観光地理 2 欧州の観光資源を知り、理解度をチェックする					事前：なし 事後：資料の精読		講義 50分、 映像 20分、小テスト 20分	
10	海外旅行実務 3 時差の計算方法を理解し、理解度をチェックする					事前：なし 事後：資料の精読		講義 50分、 映像 20分、小テスト 20分	
11	海外観光地理 3 中東アフリカの観光資源を知り、理解度をチェックする					事前：なし 事後：資料の精読		講義 50分、 映像 20分、小テスト 20分	
12	海外旅行実務 4 国際航空運賃の規則を知り、理解度をチェックする					事前：なし 事後：資料の精読		講義 50分、 映像 20分、小テスト 20分	
13	海外観光地理 4 中南米・豪州の観光資源を知り、理解度をチェックする					事前：なし 事後：資料の精読		講義 50分、 映像 20分、小テスト 20分	
14	海外旅行実務 5 観光英語の基礎をマスターし、理解度をチェックする					事前：なし 事後：資料の精読		講義 50分、 映像 20分、小テスト 20分	
15	まとめ 世界の食を知り、理解度をチェックする					事前：なし 事後：資料の精読		講義 50分、 映像 20分、小テスト 20分	
教 本： 講義時にプリントを配布する。					参 考 文 献： 授業時に随時紹介する。				
成 績 評 価 の 方 法、評 価 基 準：到達目標が達成できたかを評価する。 定期試験（60％）、平常点（40％）で総合評価する。									
学 生 へ の ア ド バ イ ス： 復習を行うこと、欠席をしないことを希望します。									
オ ー フ ィ ス ア ー： 初回講義日に伝える。									

開 講 年 次	2 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修	選 択	単 位 数	2	時 間 数	30	授業形態	講 義
授業科目(英文)	旅行業論Ⅰ（Travel IndustryⅠ）						科目分類	専門科目	
担 当 教 員	大 井 功								
履 修 条 件	前提科目	なし							
	そ の 他	なし							
授業概要： 映像によりイメージを掴んだ上で、旅行業を概括し、旅行業に特有な経営形態や商品の特性を理解し、その商品がどのように企画・造成され、どのような市場で、どのように販売されているかを把握する。更に、旅行業に関わる法律が消費者をどのように保護しているかを討議する。									
授業目標： 旅行業経営と商品特性を理解する。									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成				学びに向かう力・人間性の涵養		
○			◎						
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態	
1	オリエンテーション					事前：参考文献・類書を読む 事後：配布プリントを読返す		講義 90分	
2	旅行業概観： 旅行業の歴史や旅行業の意義や機能などを考察し、討議する。					事前：参考文献・類書を読む 事後：配布プリントを読返す		講義 50分、 映像 20分、討議 20分	
3	旅行業とは： 旅行業法上の旅行業や旅行業の現状などを考察し、討議する。					事前：参考文献・類書を読む 事後：配布プリントを読返す		講義 50分、 映像 20分、討議 20分	
4	旅行市場： 国内旅行・海外旅行・訪日外国人の市場規模、旅行会社の課題などを考察し、討議する。					事前：参考文献・類書を読む 事後：配布プリントを読返す		講義 50分、 映像 20分、討議 20分	
5	旅行業経営： 日本の旅行業の経営特質や問題点などを考察し、討議する。					事前：参考文献・類書を読む 事後：配布プリントを読返す		講義 50分、 映像 20分、討議 20分	
6	販売戦略： 旅行業の商品とその販売方法や店舗政策などを考察し、討議する。					事前：参考文献・類書を読む 事後：配布プリントを読返す		講義 50分、 映像 20分、討議 20分	
7	商品部門別業務： 国内旅行、海外旅行の部門別業務内容などを考察し、討議する。					事前：参考文献・類書を読む 事後：配布プリントを読返す		講義 50分、 映像 20分、討議 20分	
8	販売形態： 店頭販売、団体営業、メディア販売などを考察し、討議する。					事前：参考文献・類書を読む 事後：配布プリントを読返す		講義 50分、 映像 20分、討議 20分	
9	主要市場における営業活動（Ⅰ）： パッケージツアー、教育旅行、業務旅行、視察旅行などを考察し、討議する。					事前：参考文献・類書を読む 事後：配布プリントを読返す		講義 50分、 映像 20分、討議 20分	
10	主要市場における営業活動（Ⅱ）： イベント・コンベンション、海外ウエディング・マーケットなどを考察し、討議する。					事前：参考文献・類書を読む 事後：配布プリントを読返す		講義 50分、 映像 20分、討議 20分	
11	業務別にみた営業内容： ホールセラー、リテラー、ツアーオペレーターなどの営業を考察し、討議する。					事前：参考文献・類書を読む 事後：配布プリントを読返す		講義 50分、 映像 20分、討議 20分	
12	旅行業のマーケティング： 旅行業のマーケティングの特徴を考察し、討議する。					事前：参考文献・類書を読む 事後：配布プリントを読返す		講義 50分、 映像 20分、討議 20分	
13	旅行業関連法令： 旅行業法の変遷、旅行業約款などを考察し、討議する。					事前：参考文献・類書を読む 事後：配布プリントを読返す		講義 50分、 映像 20分、討議 20分	
14	ニューツーリズムとは： エコツーリズム、グリーンツーリズム、産業観光などを理解し、討議する。					事前：参考文献・類書を読む 事後：配布プリントを読返す		講義 50分、 映像 20分、討議 20分	
15	観光政策と観光： 観光行政、観光立国宣言、観光基本法などを考察し、討議する。					事前：参考文献・類書を読む 事後：配布プリントを読返す		講義 50分、 映像 20分、討議 20分	
教本： プリントを配布する。					参考文献： 1. 高橋秀夫著「クラブツーリズム研究」毎日新聞社 ￥1,800+税 2. 廣岡裕一他著「変化する旅行ビジネス」文理閣 ￥2,000+税				
成績評価の方法、評価基準：到達目標が達成できたかを評価する。 平常点（授業参画度、小テスト等）（40%）、定期試験（60%）等									
学生へのアドバイス： 旅行業界で活躍したい人、旅行好きの人、楽しく学びましょう。									
オフィスアワー： 初回講義日に伝える。									

開 講 年 次	2 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修	選 択	単 位 数	2	時 間 数	30	授業形態	講 義
授業科目(英文)	旅行業論Ⅱ（Travel IndustryⅡ）						科目分類	専門科目	
担 当 教 員	大 井 功								
履 修 条 件	前提科目	旅行業論Ⅰを同時履修か、過去に履修したことがある。							
	そ の 他	なし							
授業概要： 映像によりイメージを掴んだ上で、旅行業を概括し、旅行業に特有な経営形態や商品の特性を理解し、その商品がどのように企画・造成され、どのような市場で、どのように販売されているかを把握する。更に、旅行業に関わる法律が消費者をどのように保護しているかを討議する。									
授業目標： 旅行業経営と商品特性を理解する。									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成				学びに向かう力・人間性の涵養		
○			◎						
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態	
1	旅行業界を取り巻く環境（Ⅰ）： LCCのビジネス・モデル、アウトバウンドとインバウンドの状況などを考察し、討議する。					事前：参考文献・類書を読む 事後：配布プリントを読返す		講義 50分、 映像 20分、討議 20分	
2	旅行業界を取り巻く環境（Ⅱ）： 旅行商品の特性や流通の仕組みなどを考察し、討議する。					事前：参考文献・類書を読む 事後：配布プリントを読返す		講義 50分、 映像 20分、討議 20分	
3	旅行業界を取り巻く環境（Ⅲ）： 旅の3要素、旅行商品の特性、旅行会社の機能などを考察し、討議する。					事前：参考文献・類書を読む 事後：配布プリントを読返す		講義 50分、 映像 20分、討議 20分	
4	旅行業界を取り巻く環境（Ⅳ）： 旅行業の現状、旅行会社の経営状況などを考察し、討議する。					事前：参考文献・類書を読む 事後：配布プリントを読返す		講義 50分、 映像 20分、討議 20分	
5	旅行業界を取り巻く環境（Ⅴ）： ホールセラー会社、インターネット販売などを考察し、討議する。					事前：参考文献・類書を読む 事後：配布プリントを読返す		講義 50分、 映像 20分、討議 20分	
6	売れる旅行商品（Ⅰ）： 旅行商品の7つの構成要素とその組み合わせ方法などを考察し、討議する。					事前：参考文献・類書を読む 事後：配布プリントを読返す		講義 50分、 映像 20分、討議 20分	
7	売れる旅行商品（Ⅱ）： シーズンとオフの戦略、顧客価値経営、価格競争、チャーター便などを考察し、討議する					事前：参考文献・類書を読む 事後：配布プリントを読返す		講義 50分、 映像 20分、討議 20分	
8	聖地巡礼： 世界遺産からアニメの舞台まで本物に出会い体験する。旅行形態を考察し、討議する。					事前：参考文献・類書を読む 事後：配布プリントを読返す		講義 50分、 映像 20分、討議 20分	
9	旅行業の将来： 海外旅行マーケティングの変遷、ビジネス・モデルの変化、MICE市場などを考察し、討議する。					事前：参考文献・類書を読む 事後：配布プリントを読返す		講義 50分、 映像 20分、討議 20分	
10	国際ホテル利用法： 国際ホテル利用のための、英語表現法を考察し、討議する。					事前：参考文献・類書を読む 事後：配布プリントを読返す		講義 50分、 映像 20分、討議 20分	
11	旅行の法律： 独占禁止法、景品表示法、白夜事件などを考察し、討議する。					事前：参考文献・類書を読む 事後：配布プリントを読返す		講義 50分、 映像 20分、討議 20分	
12	ブライダル産業： 人気のウェディングや関連産業などを考察し、討議する。					事前：参考文献・類書を読む 事後：配布プリントを読返す		講義 50分、 映像 20分、討議 20分	
13	ディズニーランドのCS： 強さの秘密、新しいアトラクションの建設など、感動の経営を考察し、討議する。					事前：参考文献・類書を読む 事後：配布プリントを読返す		講義 50分、 映像 20分、討議 20分	
14	リゾート開発と観光文化： 国際リゾート開発の狙いと課題を考察し、討議する。					事前：参考文献・類書を読む 事後：配布プリントを読返す		講義 50分、 映像 20分、討議 20分	
15	旅行業の課題と展望： 市場の変化、クラブツーリズムの経営などを考察し、討議する。					事前：参考文献・類書を読む 事後：配布プリントを読返す		講義 50分、 映像 20分、討議 20分	
教本： プリントを配布する。					参考文献： 1. 高橋秀夫著「クラブツーリズム研究」毎日新聞社 ￥1,800+税 2. 廣岡裕一他著「変化する旅行ビジネス」文理閣 ￥2,000+税				
成績評価の方法、評価基準：到達目標が達成できたかを評価する。 平常点（授業参画度、小テスト等）（40%）、定期試験（60%）等									
学生へのアドバイス： 旅行業界で活躍したい人、旅行好きの人、楽しく学びましょう。									
オフィスアワー： 初回講義日に伝える。									

開 講 年 次	2 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修	選 択	単 位 数	2	時 間 数	30	授業形態	講 義
授業科目(英文)	臨床心理学（Clinical Psychology）						科目分類	専門科目	
担 当 教 員	水本 深喜								
履 修 条 件	前提科目	なし							
	そ の 他	なし							
授業概要： 本講義では、様々な精神障害、心理療法、心理アセスメントについて、概論を学ぶ。講義内では、適宜事例や社会的事象を紹介する。									
授業目標： 心の問題について理解し、支援の仕方の基本を習得する。そして事故や他者の心への気づきを深めることを目標とする。									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成				学びに向かう力・人間性の涵養		
◎			○						
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）				事前・事後学習（学習課題）			授業形態	
1	オリエンテーション				事前：シラバスの確認 事後：授業の見通しをたてる			講義 40分、 グループワーク 50分	
2	精神障害①うつ				事前：資料確認・課題検討 事後：精神障害について理解する			講義 50分、 グループワーク 40分	
3	精神障害②不安障害				事前：資料確認・課題検討 事後：精神障害について理解する			講義 50分、 グループワーク 40分	
4	精神障害③統合失調症				事前：資料確認・課題検討 事後：精神障害について理解する			講義 50分、 グループワーク 40分	
5	精神障害④人格障害				事前：資料確認・課題検討 事後：精神障害について理解する			講義 50分、 グループワーク 40分	
6	精神障害⑤発達障害				事前：資料確認・課題検討 事後：精神障害について理解する			講義 50分、 グループワーク 40分	
7	心理療法①パーソン・センタード心理療法				事前：資料確認・課題検討 事後：精神障害へのアプローチの方法を理解する			講義 50分、 グループワーク 40分	
8	心理療法②精神分析的な心理療法				事前：資料確認・課題検討 事後：精神障害へのアプローチの方法を理解する			講義 50分、 グループワーク 40分	
9	心理療法③認知行動療法				事前：資料確認・課題検討 事後：精神障害へのアプローチの方法を理解する			講義 50分、 グループワーク 40分	
10	心理療法④家族療法				事前：資料確認・課題検討 事後：精神障害へのアプローチの方法を理解する			講義 50分、 グループワーク 40分	
11	心理アセスメント①行動観察				事前：資料確認・課題検討 事後：心理アセスメントについて理解する			講義 50分、 グループワーク 40分	
12	心理アセスメント②心理検査				事前：資料確認・課題検討 事後：心理アセスメントについて理解する			講義 50分、 グループワーク 40分	
13	事例論文を読む				事前：資料確認・課題検討 事後：心理アセスメントについて理解する			講義 50分、 グループワーク 40分	
14	事例検討				事前：資料確認・課題検討 事後：心理アセスメントについて理解する			講義 50分、 グループワーク 40分	
15	まとめ				事前：授業全般の復習 事後：理解の補完			講義	
教本： 資料を配布する。					参考文献： 授業中に、適宜紹介する。				
成績評価の方法、評価基準： 授業参加状況等（50%）、テスト（50%）で総合評価する。									
学生へのアドバイス： 授業には、グループワーク、ディスカッション等を取り入れる。毎回の授業終了時には、コメントペーパーに授業内容から考えたことを書いて提出していただく。									
オフィスアワー： 初回授業日に伝える。									

開 講 年 次	2 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修	選 択	単 位 数	2	時 間 数	30	授業形態	講 義
授業科目(英文)	倫理学 (Ethics)						科目分類	基礎科目	
担 当 教 員	金澤 秀嗣								
履 修 条 件	前提科目	なし							
	そ の 他	なし							
授業概要： 人権の更なる拡充が叫ばれる今日、個人の〈自由〉が、既成のモラルや法と対立する局面が現れている。そもそも我々はなぜ〈規範〉を遵守する義務を負うのか。また〈規範〉には、時代や文化の差異を超えた内実が認められうるのであろうか。									
授業目標： 上述した問題関心のもと、本講では〈自由と規範〉をテーマに掲げ、倫理学の地平から個人と共同体の在り方について考察したい。									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成				学びに向かう力・人間性の涵養		
			○				◎		
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態	
1	自由と規範 概論：自然法論の系譜を辿り、各論で展開される人間・国家観を俯瞰する。					事前：特になし 事後：講義内容を復習する。		講義 90 分	
2	神的自然法論① 原罪・〈事物の本性〉と人間の自由					事前：レジュメを熟読する。 事後：講義内容を復習する。		講義 90 分	
3	神的自然法論② アウグスティヌスとトマス・アクィナスの自然法概念					事前：レジュメを熟読する。 事後：講義内容を復習する。		講義 90 分	
4	契約説的自然法論 アトムの個人の権利と国家権力① ホッブズ：〈リヴァイアサン〉はなぜ抵抗権を認めないのか					事前：レジュメを熟読する。 事後：講義内容を復習する。		講義 90 分	
5	契約説的自然法論 アトムの個人の権利と国家権力② ロック、ルソー：市民的不服従の論理					事前：レジュメを熟読する。 事後：講義内容を復習する。		講義 90 分	
6	カント理論哲学 認識の枠組： 〈世界〉はいかに在るか					事前：レジュメを熟読する。 事後：講義内容を復習する。		講義 90 分	
7	カント実践哲学 徳論と法論： 〈自己〉と〈他者〉はいかに在るべきか					事前：レジュメを熟読する。 事後：講義内容を復習する。		講義 90 分	
8	ヘーゲル〈人倫〉の学① 「自然法論文」における近代自然法論批判 1					事前：レジュメを熟読する。 事後：講義内容を復習する。		講義 90 分	
9	ヘーゲル〈人倫〉の学② 「自然法論文」における近代自然法論批判 2					事前：レジュメを熟読する。 事後：講義内容を復習する。		講義 90 分	
10	ヘーゲル〈人倫〉の学③ 「自然法論文」における共同体論：〈真無限〉の立場					事前：レジュメを熟読する。 事後：講義内容を復習する。		講義 90 分	
11	ヘーゲル〈人倫〉の学④ イエーナ精神哲学における相互承認論：〈愛〉					事前：レジュメを熟読する。 事後：講義内容を復習する。		講義 90 分	
12	ヘーゲル〈人倫〉の学⑤ イエーナ精神哲学における相互承認論：〈闘争〉					事前：レジュメを熟読する。 事後：講義内容を復習する。		講義 90 分	
13	ヘーゲル〈人倫〉の学⑥ 『精神現象学』における相互承認論：〈主人と奴隷の弁証法〉					事前：レジュメを熟読する。 事後：講義内容を復習する。		講義 90 分	
14	ヘーゲル〈人倫〉の学⑦ 論理学と『法哲学綱要』の視座					事前：レジュメを熟読する。 事後：講義内容を復習する。		講義 90 分	
15	ヘーゲル〈人倫〉の学⑧ 〈民族精神〉と〈世界精神〉：〈世界法廷〉としての世界史					事前：レジュメを熟読する。 事後：試験の準備をする。		講義 90 分	
教本： なし。毎講義時にレジュメ（プリント）を配布する。					参考文献： 岩崎武雄『西洋哲学史（再訂版）』（有斐閣）				
成績評価の方法、評価基準：到達目標が達成できたかを評価する。 定期試験（100％）で評価する。									
学生へのアドバイス： 曜日や時限の都合（例：「空きコマだった」という理由）だけで履修すると、単位を修得できず、後悔することもあります。履修に際しては、哲学・倫理学・思想史一般について多少なりとも関心を持っていることが求められます。									
オフィスアワー： 初回講義日に伝える。									

開 講 年 次	2 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修	選 択	単 位 数	2	時 間 数	30	授業形態	講義
授業科目(英文)	歴史考古学 (Historical Archeology)						科目分類	専門科目	
担 当 教 員	小林 克								
履 修 条 件	前提科目	なし							
	そ の 他	なし							
授業概要： 考古学の一分野である歴史考古学は、古代以降の歴史研究を、文献史学(古文書学)とともに探求していく学問である。最初に歴史学との関係や、考古学研究としての方法、目的、成果を説明する。その上で、世界各地の歴史考古学研究の状況を講義し、次に日本列島における歴史考古学の現状と成果を、古代・中世・近世・近現代と事例を示して学んでいく。									
授業目標： 考古学的資料が、歴史研究にどのように活用できるのか理解する。 中世・近世・近現代の歴史考古学的研究が歴史叙述に生かされていることを理解する。									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成				学びに向かう力・人間性の涵養		
◎			○						
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態	
1	ガイダンス。授業の進め方、評価方法の説明。考古学研究の特徴について					事前：高校の日本史の教科書を読んでおく。 事後：配布資料の内容確認		講義(70分)、ディスカッション(20分)	
2	考古学研究と歴史考古学研究。文献史研究との関係を説明する					事前：古文書学について調べる。 事後：配布資料の内容確認		講義(80分)、 小テスト(10分)	
3	歴史考古学と関連諸学。民俗学、美術史、建築史等との関係を説明し物質文化研究を理解する					事前：例示した関連諸学について調べる。 事後：配布資料の内容確認		講義(80分)、 小テスト(10分)	
4	世界各地の歴史考古学。ヨーロッパの古典考古学と中世以降の都市考古学。アメリカや世界各地の大航海時代以降の歴史考古学の概要					事前：ギリシャ・ローマ時代について確認 米国の歴史の概要を調べる 事後：配布資料の内容確認		講義(80分)、 小テスト(10分)	
5	日本の古代の歴史考古学。中国大陸、朝鮮半島との関連からの年代決定と国内の文献史料の利用					事前：弥生、古墳、飛鳥時代について確認 事後：配布資料の内容確認		講義(80分)、 小テスト(10分)	
6	平安時代の歴史考古学。都市、寺院跡、集落の発掘から分かることと文献史料の関係					事前：平安時代について確認 事後：配布資料の内容確認		講義(80分)、 小テスト(10分)	
7	中世考古学 (1) 都市と城の発掘調査と出土資料から分かる生活文化					事前：鎌倉・室町・戦国時代について確認 事後：配布資料の内容確認		講義(80分)、 小テスト(10分)	
8	中世考古学 (2) 歴史考古学的研究により判明した戦国時代のリアリティー					事前：南北朝時代について確認 事後：配布資料の内容確認		講義(80分)、 小テスト(10分)	
9	近世考古学 (1) 近世考古学史と陶磁器・土器研究。関連諸学との連携で分かってきたこと					事前：江戸時代の年代等概要について確認 事後：配布資料の内容確認		講義(80分)、 小テスト(10分)	
10	近世考古学 (2) 上水道、大小便の処理など都市機能の整備と住生活について					事前：江戸時代の人々の暮らしを考える。 事後：配布資料の内容確認		講義(90分)	
11	近世考古学 (3) 江戸の食文化について。出土資料と絵画資料、文献史料を交えて解説					事前：江戸時代の酒や食物について調べる。 事後：配布資料の内容確認		講義(70分)、ディスカッション(20分)	
12	近世考古学 (4) 各地の遺跡の発掘調査からわかった江戸と各地の城下町、農村の関係					事前：江戸時代の富士山噴火や地震を確認。 事後：配布資料の内容確認		講義(80分)、 小テスト(10分)	
13	歴史考古学からみた16世紀～18世紀の世界、東アジア世界の状況					事前：東アジアの地理について確認。 事後：配布資料の内容確認		講義(70分)、小レポート作成(20分)	
14	近・現代考古学 近・現代考古学の成果と意義。汐留遺跡、高輪堤址、戦跡遺跡。産業考古学					事前：明治～昭和の概要について確認 事後：配布資料の内容確認		講義(80分)、 小テスト(10分)	
15	まとめ。授業全体の振り返りと議論					事前：毎回配布資料を全て確認しておく。 事後：配布資料の内容確認		講義(45分)、デスカッション(45分)	
教本： 特にありません。ほぼ毎回資料プリントを配布。					参考文献： 講義ごとに示す。				
成績評価の方法、評価基準： 授業参加状況等（20%）、小テスト、レポート等（30%）、定期試験（50%）等で総合評価する。3回以上の欠席の場合は、公欠等にかかわらず課題を課す。									
学生へのアドバイス： 毎回配布する資料プリントで復習してください。小テスト、定期試験はそのプリントから出題します。									
オフィスアワー： 初回講義日に伝える。									

開 講 年 次	2 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修	選 択	単 位 数	2	時 間 数	30	授業形態	講義
授業科目(英文)	レストラン経営論Ⅰ（Restaurant Management TheoryⅠ）						科目分類	専門科目	
担 当 教 員	小林 信次								
履 修 条 件	前提科目	なし							
	そ の 他	なし							
授業概要： レストラン業界の現状と今後の方向性を考え、レストラン開業までに必要なマネジメント（基本構想～基本計画～実施計画～着工・竣工）について学習する。									
授業目標： 1. レストランについての基礎・専門知識を学び、その経営に関心を持つようにする。 2. 「ホスピタリティ・マインド」を身につける。 3. 「社会人としての基本的なマナー・知識」を身につける。（授業開始時、終了時に挨拶の練習を実施）									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成				学びに向かう力・人間性の涵養		
○							◎		
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態	
1	オリエンテーション 「自己紹介」・「シラバス」・「受講の留意点」・「成績評価方法及基準点」・「オフィスアワー」・「挨拶の練習」について説明する。					事前：シラバスを読んでおく 事後：次回授業の予習		オリエンテーション 60分 質疑応答 30分	
2	レストラン業界の現状（外食産業における位置づけ、動向と業態特性）について小テスト・課題を記入後、質疑応答しながら進める。					事前：授業の予習（教科書 P12～17） 事後：次回授業の予習		小テスト・課題 20分、 講義 40分、質疑応答 30分	
3	レストランの経営形態とその特徴について小テスト・課題を記入後、質疑応答しながら進める。					事前：授業の予習（教科書 P18～22） 事後：次回授業の予習		小テスト・課題 20分、 講義 40分、質疑応答 30分	
4	レストラン経営の問題・課題について小テスト・課題を記入後、質疑応答しながら進める。					事前：授業の予習（教科書 P23～27） 事後：次回授業の予習		小テスト・課題 20分、 講義 40分、質疑応答 30分	
5	レストラン経営の、これからの方向性と今後求められるレストランマネジメントについて小テスト・課題を記入後、質疑応答しながら進める。					事前：授業の予習（教科書 P28～37） 事後：次回授業の予習		小テスト・課題 20分、 講義 40分、質疑応答 30分	
6	レストラン開業までのマネジメント（業態別の商品特性、事業計画策定上の留意点、開業までの業務手順）について小テスト・課題を記入後、質疑応答しながら進める。					事前：授業の予習（教科書 P39～45） 事後：次回授業の予習		小テスト・課題 20分、 講義 40分、質疑応答 30分	
7	基本構想（事業イメージの設定、立地選定、市場調査）について小テスト・課題を記入後、質疑応答しながら進める。					事前：授業の予習（教科書 P46～53） 事後：次回授業の予習		小テスト・課題 20分、 講義 40分、質疑応答 30分	
8	基本構想（理念・コンセプトの設定、基本商品化戦略の設定、資金計画、設計イメージ）について小テスト・課題を記入後、質疑応答しながら進める。					事前：授業の予習（教科書 P54～60） 事後：次回授業の予習		小テスト・課題 20分、 講義 40分、質疑応答 30分	
9	基本計画（メニュープランニング、店舗の基本計画およびデザイン）について小テスト・課題を記入後、質疑応答しながら進める。					事前：授業の予習（教科書 P61～65） 事後：次回授業の予習		小テスト・課題 20分、 講義 40分、質疑応答 30分	
10	事業収支計画について小テスト・課題を記入後、質疑応答しながら進める。					事前：授業の予習（教科書 P66～70） 事後：次回授業の予習		小テスト・課題 20分、 講義 40分、質疑応答 30分	
11	運営計画について小テスト・課題を記入後、質疑応答しながら進める。					事前：授業の予習（教科書 P70～73） 事後：次回授業の予習		小テスト・課題 20分、 講義 40分、質疑応答 30分	
12	実施計画（販売促進計画、購買・仕入計画、店舗の実施設計、許認可申請）について小テスト・課題を記入後、質疑応答しながら進める。					事前：授業の予習（教科書 P74～79） 事後：次回授業の予習		小テスト・課題 20分、 講義 40分、質疑応答 30分	
13	着工・竣工（事業収支計画のチェック、メニューのチェック、運営計画のチェック）について小テスト・課題を記入後、質疑応答しながら進める。					事前：授業の予習（教科書 P80～82） 事後：次回授業の予習		小テスト・課題 20分、 講義 40分、質疑応答 30分	
14	着工・竣工（従業員の採用と教育訓練、オープニング計画、竣工検査、開業シミュレーション、オープン）について小テスト・課題を記入後、質疑応答しながら進める。					事前：授業の予習（教科書 P82～88） 事後：次回授業の予習		小テスト・課題 20分、 講義 40分、質疑応答 30分	
15	半期授業の総括。 授業のポイントについて説明し理解度を確認する。					事前：半期授業内容の確認 事後：ポイントを整理する		講義 60分 質疑応答 30分	
教本： 「レストランマネジメント総論」（日本ホテル教育センター ￥2,900）					参考文献： 必要な資料をその都度配信する。				
成績評価の方法、評価基準：到達目標が達成できたかを評価する。 平常点（15%）、小テスト・課題等（20%）、定期試験のレポート（65%）等で総合評価する。									
学生へのアドバイス： 理解できない点や講義内容にないことでも、お気軽に聴いてください。									
オフィスアワー： 初回講義日に伝える。									

開 講 年 次	2 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修	選 択	単 位 数	2	時 間 数	30	授業形態	講 義
授業科目(英文)	レストラン経営論Ⅱ（Restaurant Management Theory Ⅱ）						科目分類	専門科目	
担 当 教 員	小林 信次								
履 修 条 件	前提科目	なし							
	そ の 他	なし							
授業概要： レストラン業界の現状と今後の方向性を考え、レストラン開業後のマネジメント（開業前との違い、商品管理、労務管理、施設管理、仕入れ管理・在庫管理、財務管理、販売促進管理、顧客管理、レストランの防災・防犯管理、食中毒、事故、地震、防火管理、盗難防止・遺失物管理、UG客・暴力団、コンプレイン）について学習する。									
授業目標： 1. レストランについての基礎・専門知識を学び、その経営に関心を持つようにする。 2. 「ホスピタリティ・マインド」を身につける。 3. 「社会人としての基本的なマナー・知識」を身につける。(授業開始時、終了時に挨拶の練習を実施)									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成				学びに向かう力・人間性の涵養		
○							◎		
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態	
1	オリエンテーション 「自己紹介」・「シラバス」・「受講の留意点」・「成績評価方法と基準点」・「オフィスアワー」・「挨拶の練習」について説明する。					事前：シラバスを読んでおく 事後：次回授業の予習		オリエンテーション 60分 質疑応答 30分	
2	レストラン開業前・開業後のマネジメント活動の違い、「マネジメントサイクル」について小テスト・課題を記入後、質疑応答しながら進める。					事前：授業の予習(教科書 P89～94) 事後：次回授業の予習		小テスト・課題 20分、 講義 40分、質疑応答 30分	
3	レストランの商品管理（商品管理の留意点、メニュー）、「ABC 分析」について小テスト・課題を記入後、質疑応答しながら進める。					事前：授業の予習(教科書 P95～99) 事後：次回授業の予習		小テスト・課題 20分、 講義 40分、質疑応答 30分	
4	レストランの商品管理（価格、サービス）について小テスト・課題を記入後、質疑応答しながら進める。					事前：授業の予習(教科書 P99～103) 事後：次回授業の予習		小テスト・課題 20分、 講義 40分、質疑応答 30分	
5	レストランの労務管理（職務分掌、採用：選考・採用、勤務シフト、教育訓練）について小テスト・課題を記入後、質疑応答しながら進める。					事前：授業の予習（教科書 P104～110） 事後：次回授業の予習		小テスト・課題 20分、 講義 40分、質疑応答 30分	
6	レストランの施設管理（店舗、客席、厨房、その他）について小テスト・課題を記入後、質疑応答しながら進める。					事前：授業の予習（教科書 P111～114） 事後：次回授業の予習		小テスト・課題 20分、 講義 40分、質疑応答 30分	
7	レストランの仕入れ管理・在庫管理（留意点、食材、什器・備品、業務委託）について小テスト・課題を記入後、質疑応答しながら進める。					事前：授業の予習（教科書 P115～124） 事後：次回授業の予習		小テスト・課題 20分、 講義 40分、質疑応答 30分	
8	レストランの財務管理（留意点、損益分岐点分析、財務諸表、原価管理）について小テスト・課題を記入後、質疑応答しながら進める。					事前：授業の予習(教科書 P125～134) 事後：次回授業の予習		小テスト・課題 20分、 講義 40分、質疑応答 30分	
9	レストランの販売促進管理（留意点、セールス、広報、広告・宣伝、イベント・フェア）について小テスト・課題を記入後、質疑応答しながら進める。					事前：授業の予習（教科書 P135～139） 事後：次回授業の予習		小テスト・課題 20分、 講義 40分、質疑応答 30分	
10	レストランの顧客管理（留意点、方法、事例）について小テスト・課題を記入後、質疑応答しながら進める。					事前：授業の予習(教科書 P140～143) 事後：次回授業の予習		小テスト・課題 20分、 講義 40分、質疑応答 30分	
11	第10回授業までの学習課題について小テスト・課題を記入後、質疑応答しながら進める。					事前：授業の予習(教科書 P89～143) 事後：次回授業の予習		講義 40分、質疑応答 30分 チェックシートで振り返る 20分	
12	レストランの防災・防犯・衛生管理（防災・防犯管理、食中毒）について小テスト・課題を記入後、質疑応答しながら進める。					事前：授業の予習(教科書 P147～157) 事後：次回授業の予習		小テスト・課題 20分、 講義 40分、質疑応答 30分	
13	レストランの防災・防犯・衛生管理（事故、地震、防火管理）について小テスト・課題を記入後、質疑応答しながら進める。					事前：授業の予習(教科書 P158～166) 事後：次回授業の予習		小テスト・課題 20分、 講義 40分、質疑応答 30分	
14	レストランの防災・防犯・衛生管理（盗難防止・遺失物管理、UG客・暴力団、コンプレイン）について小テスト・課題を記入後、質疑応答しながら進める。					事前：授業の予習(教科書 P167～182) 事後：次回授業の予習		小テスト・課題 20分、 講義 40分、質疑応答 30分	
15	半期授業の総括。 授業のポイントについて説明し理解度を確認する。					事前：半期授業内容の確認 事後：ポイントを整理する		講義 60分 質疑応答 30分	
教本： 「レストランマネジメント総論」（日本ホテル教育センター ￥2,900）					参考文献： 必要な資料をその都度配信する。				
成績評価の方法、評価基準：到達目標が達成できたかを評価する。 平常点（15%）、小テスト・課題等（20%）、定期試験のレポート（65%）等で総合評価する。									
学生へのアドバイス： 理解できない点や講義内容にないことでも、お気軽に聴いてください。									
オフィスアワー： 初回講義日に伝える。									

開 講 年 次	3 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修	選 択	単 位 数	2	時 間 数	30	授業形態	講 義
授業科目(英文)	レストランサービス実務（Restaurant Service）						科目分類	専門科目	
担 当 教 員	小林 信次								
履 修 条 件	前提科目	なし							
	そ の 他	なし							
授業概要： レストラン（位置づけ、種類、特性）、組織と業務分担、サービスの基本（テーブルクロス、ナプキン、食器類、トーション、サービストレイ、グラスウェア、飲物の注ぎ方、ナイフ・フォーク、皿の持ち方・配り・下げ方、サーバー、料理の盛り付け）、レストランサービス（心構え、マナー、テーブルサービス、メニューの知識、サービスの手順、料飲サービスの実際、衛生管理、苦情処理）、バーサービス（手順、苦情処理、覚えておきたい基礎知識）、食器・リネン・備品の知識（シルバーウェア、チャイナウェア、グラスウェア、リネン類、ワゴン類他）、レストランの防災・防犯について学習する。									
授業目標： 1. レストランサービスについての基礎・専門知識を学び、レストランサービスに関心を持つようにする。 2. 「ホスピタリティ・マインド」を身につける。 3. 「社会人としての基本的なマナー・知識」を身につける。（授業開始時、終了時に挨拶の練習を実施）									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成				学びに向かう力・人間性の涵養		
○							◎		
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態	
1	オリエンテーション 「自己紹介」・「シラバス」・「受講の留意点」・「成績評価方法及基準点」・「オフィスアワー」・「挨拶の練習」について説明する。					事前：シラバスを読んでおく 事後：次回授業の予習		オリエンテーション 60分 質疑応答 30分	
2	レストラン（料飲部門、レストランの位置づけ、種類、業務の特性、基礎知識）について小テスト・課題を記入後、質疑応答しながら進める。					事前：授業の予習 （教科書 P2～16） 事後：次回授業の予習		小テスト・課題 20分、 講義 40分、質疑応答 30分	
3	レストランの組織と業務分担（組織、マネージャー、キャプテン、ウェ이터・ウェイトレス、ソムリエ、その他、覚えておきたい基礎知識）について小テスト・課題を記入後、質疑応答しながら進める。					事前：授業の予習 （教科書 P18～30） 事後：次回授業の予習		小テスト・課題 20分、 講義 40分、質疑応答 30分	
4	サービスの基本（テーブルクロスのかけ方、ナプキンの折り方、食器類のセッティング、トーションのかけ方、サービストレイの持ち方）について小テスト・課題を記入後、質疑応答しながら進める。					事前：授業の予習 （教科書 P32～47） 事後：次回授業の予習		小テスト・課題 20分、 講義 40分、質疑応答 30分	
5	サービスの基本（グラスウェアの扱い方、飲物の注ぎ方、ナイフ・フォーク・スプーンの取り扱い方、皿の持ち方・配り方・下げ方、サーバーの使い方、料理の盛り付け方、覚えておきたい基礎知識）について小テスト・課題を記入後、質疑応答しながら進める。					事前：授業の予習 （教科書 P48～66） 事後：次回授業の予習		小テスト・課題 20分、 講義 40分、質疑応答 30分	
6	レストランサービス（サービスとは、サービス時の心構え、サービス時のマナー、テーブルサービス）について小テスト・課題を記入後、質疑応答しながら進める。					事前：授業の予習 （教科書 P68～85） 事後：次回授業の予習		小テスト・課題 20分、 講義 40分、質疑応答 30分	
7	レストランサービス（メニューの知識、サービス業務の手順）について小テスト・課題を記入後、質疑応答しながら進める。					事前：授業の予習 （教科書 P86～115） 事後：次回授業の予習		小テスト・課題 20分、 講義 40分、質疑応答 30分	
8	レストランサービス（料飲サービスの実際 食前酒～赤ワイン）について小テスト・課題を記入後、質疑応答しながら進める。					事前：授業の予習 （教科書 P115～127） 事後：次回授業の予習		小テスト・課題 20分、 講義 40分、質疑応答 30分	
9	レストランサービス（料飲サービスの実際 肉料理～食後酒）衛生管理、苦情処理について小テスト・課題を記入後、質疑応答しながら進める。					事前：授業の予習 （教科書 P127～142） 事後：次回授業の予習		小テスト・課題 20分、 講義 40分、質疑応答 30分	
10	レストランサービス（ルームサービス、コーヒeshop） バーの基本知識（料飲部門における位置づけ、バー業務の特性、バースタッフの役割と心得）について小テスト・課題を記入後、質疑応答しながら進める。					事前：授業の予習 （教科書 P143～158） 事後：次回授業の予習		小テスト・課題 20分、 講義 40分、質疑応答 30分	
11	バーの基本知識（バーサービスの手順、苦情処理、覚えておきたい基礎知識）について小テスト・課題を記入後、質疑応答しながら進める。					事前：授業の予習 （教科書 P159～175） 事後：次回授業の予習		小テスト・課題 20分、 講義 40分、質疑応答 30分	
12	食器・リネン・備品の知識（シルバーウェア、チャイナウェア、グラスウェア）について小テスト・課題を記入後、質疑応答しながら進める。					事前：授業の予習 （教科書 P178～191） 事後：次回授業の予習		小テスト・課題 20分、 講義 40分、質疑応答 30分	
13	食器・リネン・備品の知識（その他の食器類、リネン類、ワゴン類、覚えておきたい基礎知識）について小テスト・課題を記入後、質疑応答しながら進める。					事前：授業の予習 （教科書 P192～200） 事後：次回授業の予習		小テスト・課題 20分、 講義 40分、質疑応答 30分	
14	レストランの防災・防犯（防災・防犯管理の留意点、防災管理、防犯管理）について小テスト・課題を記入後、質疑応答しながら進める。					事前：授業の予習 （教科書 P82～88） 事後：次回授業の予習		小テスト・課題 20分、 講義 40分、質疑応答 30分	

15	半期授業の総括。 授業のポイントについて説明し理解度を確認する。	事前：半期授業内容の確認 事後：ポイントを整理する	講義 60分 質疑応答 30分
教本： 「レストラン業務の基礎」（日本ホテル教育センター ￥2,600） 参考文献： 必要な資料をその都度配信する。			
成績評価の方法、評価基準： 平常点（15%）、小テスト・課題等（20%）、定期試験のレポート（65%）等で総合評価する。			
学生へのアドバイス： 理解できない点や講義内容にないことでも、お気軽に聴いてください。			
オフィスアワー： 初回講義日に伝える。			

開 講 年 次	2 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修	選 択	単 位 数	2	時 間 数	30	授 業 形 態	演 習
授 業 科 目 (英 文)	レポ ー ト ラ イ テ ィ ン グ (Essay Writing)						科 目 分 類	専 門 科 目	
担 当 教 員	澤 田 帆 奈 美								
履 修 条 件	前 提 科 目	な し							
	そ の 他	な し							
授 業 概 要： 実 際 に 書 か れ た レポ ー ト や 小 論 文 を 分 析 し、問 題 点 と そ の 原 因 ・ 改 善 の 方 法 を 報 告 し 合 う。そ し て、わ か り や す く 説 得 力 の あ る 文 章 と は、ど こ が ど う 優 れ て い る の か を 具 体 的 に 見 出 す。さ ら に、実 作 を 通 し て 効 果 的 な 書 き 方 を 考 え、実 践 力 を 向 上 さ せ る。ル ー ブ リ ッ ク ・ ポ ー ト フ ォ リ オ に よ る 評 価 を 行 う。									
授 業 目 標： 1. ア カ デ ミ ッ ク ラ イ テ ィ ン グ と は 何 か、そ の 目 的 ・ 種 類 を 理 解 し、レポ ー ト ・ 論 文 を 作 成 す る た め の 方 法 を 考 え る。 2. レポ ー ト ・ 論 文 作 成 の 実 践 力 を 向 上 さ せ る。 3. 中 学 校 ・ 高 等 学 校 国 語 教 員 志 望 者 の 教 材 研 究 に 必 要 な 知 識 と 方 法 を 身 に つ け る。									
カ リ キ ュ ラ ム マ ッ プ に お け る 到 達 目 標（最 重 要 に ◎、重 要 に ○ 1 つ）									
知 識 ・ 技 能 の 習 得			思 考 力 ・ 判 断 力 ・ 表 現 力 の 育 成				学 び に 向 か う 力 ・ 人 間 性 の 涵 養		
◎			○						
授 業 計 画、事 前 学 習 ・ 事 後 学 習、形 式									
授 業 回 数	授 業 内 容 及 び 計 画（詳 細 に 記 入）					事 前 ・ 事 後 学 習（学 習 課 題）		授 業 形 態	
1	オリエンテーション 「アカデミックライティングとは」について説明する 事前自己評価を行う					事前：シラバスを読んでくる 事後：レポートの文体の確認		講義 30分、演習 60分	
2	レポートの形式 構成、見出しの立て方、説明の順序、論理性、参考文献について説明する					事前：疑問点を洗い出す 事後：ノート・資料の整理と復習		講義 30分、演習 60分	
3	レポートのテーマを考える					事前：関心のある事柄をあげる 事後：情報を集める		講義 30分、演習 60分	
4	レポートの構想を練り、情報を集めるー情報の集め方ー					事前：なし 事後：情報を集める		講義 30分、演習 60分	
5	情報を整理し、レポートの目標を定める					事前：なし 事後：ノート・資料の整理と復習		講義 30分、演習 60分	
6	レポート作成① 文章を組み立てる パラグラフ・ライティング 文献引用のしかた					事前：アウトラインを考える 事後：レポート第一稿完成		講義 30分、演習 60分	
7	レポート作成② 自己点検とピア活動 レポートの目的と書き方をまとめる					事前：レポートの自己点検 事後：レポートの加筆・修正		講義 30分、演習 60分	
8	小論文の分析 論理的思考と文章構成の関係を探る、論理性や表現について検証する					事前：なし 事後：ノート・資料の整理と復習		講義 30分、演習 60分	
9	小論文を書く①〈社会問題に関するテーマ〉					事前：小論文の書き方の確認 事後：小論文の自己点検		講義 30分、演習 60分	
10	小論文を書く②〈文化・言語に関するテーマ〉					事前：小論文の書き方の確認 事後：小論文の自己点検		講義 30分、演習 60分	
11	小論文を書く③〈生き方に関するテーマ〉					事前：小論文の書き方の確認 事後：小論文の自己点検		講義 30分、演習 60分	
12	レポート発表①を行う					事前：レジュメ作成 事後：発表コメントをまとめる		講義 30分、演習 60分	
13	レポート発表②を行う					事前：レジュメ作成 事後：発表コメントをまとめる		講義 30分、演習 60分	
14	レポート発表③を行う					事前：レジュメ作成 事後：発表コメントをまとめる		講義 30分、演習 60分	
15	まとめ ポートフォリオの中身を振り返り、事後自己評価をする					事前：ポートフォリオの整理 事後：ノート・資料の整理と復習		講義 30分、演習 60分	
教 本： 資料とタスクシートを配付する。					参 考 文 献： 大島弥生他（2014）『ピアで学ぶ大学生の日本語表現 [第2版]ープロセス重視のレポート作成』ひつじ書房 ￥1,728				
成 績 評 価 の 方 法、評 価 基 準：到 達 目 標 が 達 成 で き た か を 評 価 す る。 授 業 内 容 へ の 参 加 状 況 等（20％）、提 出 物 ・ 自 己 評 価 表（20％）、実 作 の レポ ー ト ・ 小 論 文（60％）等 で 総 合 評 価 す る。									
学 生 へ の ア ド バ イ ス： レポ ー ト ・ 論 文 の 書 き 方 を 学 び ま す。能 動 的 に テ ー マ を 見 つ け、論 理 的 に 文 章 を ま と め る 技 能 を 身 に つ け ま す。									
オ フ ィ ス ア ワ ー： 初 回 講 義 日 に 伝 え る。									

開 講 年 次	2 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修	選 択	単 位 数	2	時 間 数	30	授 業 形 態	演 習
授 業 科 目 (英 文)	レポ ー ト ラ イ テ ィ ン グ (Essay Writing)						科 目 分 類	専 門 科 目	
担 当 教 員	横 手 拓 治								
履 修 条 件	前 提 科 目	な し							
	そ の 他	な し							
授 業 概 要： 大 学 生 の レポ ー ト 作 成 か ら 社 会 人 と し て の 文 章 法 に つ い て、小 論 文 か ら 新 聞 ・ 雑 誌 の 文 章 ま で 幅 広 く 題 材 に し な が ら、ラ イ テ ィ ン グ の 要 領 を 学 修 す る。 各 パ ー ト で は 学 修 を ふ ま え た う え で、実 作 ・ 発 表 を 通 じ て 文 章 技 術 を 向 上 さ せ る こ と を 目 指 す。									
授 業 目 標： ＊小 論 文 ・ レポ ー ト ラ イ テ ィ ン グ の 基 礎 を 身 に つ け、大 学 生 に 必 要 な 執 筆 の 技 量 を よ り 高 め る。 ＊ジャーナルライティングの方法を知るとともに、実践することを通して、社会に出ても役に立つ「書く力」を身につける。									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知 識 ・ 技 能 の 習 得			思 考 力 ・ 判 断 力 ・ 表 現 力 の 育 成				学 び に 向 か う 力 ・ 人 間 性 の 涵 養		
○			◎						
授 業 計 画、事 前 学 習 ・ 事 後 学 習、形 式									
授 業 回 数	授 業 内 容 及 び 計 画（詳 細 に 記 入）					事 前 ・ 事 後 学 習（学 習 課 題）		授 業 形 態	
1	ガイダンス、およびライティングスキルとは何かの説明。					事前：既自作レポートの再読 事後：リアベ200字		講義45分、応答45分	
2	導入としてのリーディングスキル					事前：学術的文章を読む 事後：授業の復習と自主実践		講義60分、応答30分	
3	リーディングスキル補足、レポート・論文のライティングの技法① ～レポートを書く前に「情報をどう集めるか」について					事前：学術的文章を読む 事後：授業の復習と自主実践		講義60分、応答30分	
4	レポート・論文のライティングの技法②～書くさいの「形式」について					事前：学術的文章を読む 事後：授業の復習と自主実践		講義60分、応答30分	
5	レポート・論文のライティングの技法③ ～主張の立て方、筋道を立てて書くための方法について					事前：学術的文章を読む 事後：授業の復習と自主実践		講義60分、応答30分	
6	レポートライティングの実践①～身近なテーマで書く ※レポートライティングの追加講義を行う場合がある					事前：ライティングの準備 事後：授業の復習と自主実践		演習60分、応答30分	
7	レポートライティングの実践②～学術的・社会的テーマで書く					事前：ライティングの準備 事後：授業の復習と自主実践		演習60分、応答30分	
8	ジャーナルライティング／テーマ提示および素材収集の説明					事前：記事の文章を読む 事後：授業の復習と自主実践		講義60分、応答30分	
9	ジャーナルライティング・素材編／学生発表① ＊学生同士、学生と教員の意見交換、教員による講評					事前：素材収集の準備 事後：レビューの整理		演習60分、応答30分	
10	ジャーナルライティング・素材編／学生発表② ＊学生同士、学生と教員の意見交換、教員による講評					事前：素材収集の準備 事後：レビューの整理		演習60分、応答30分	
11	調整回（学生発表の進捗による） あるいは動画視聴「ドキュメンタリーから題材を学ぶ」①人間					事前：実践準備あるいは復習 事後：リアベ200字		講義30分、演習60分	
12	ジャーナルライティング 学生発表第1回 ＊は同じ。					事前：ライティングの準備 事後：レビューの整理		演習60分、応答30分	
13	ジャーナルライティング 学生発表第2回 ＊は同じ 適宜インタビュー法の解説を交える。					事前：ライティングの準備 事後：レビューの整理		演習60分、応答30分	
14	調整回（学生発表の進捗による） あるいは動画視聴「ドキュメンタリーから題材を学ぶ」②自然					事前：実践準備あるいは復習 事後：リアベ200字		講義30分、演習60分	
15	まとめの講義と、授業内課題の実施。					事前：全体の復習 事後：全体再復習と自主実践		講義45分、課題45分	
教 本： レジュメを適宜配布する。					参 考 文 献： 授業において適宜示し、またコピーを配布する。				
成 績 評 価 の 方 法、評 価 基 準： 授 業 参 加 ・ 発 表 状 況（40%）、レ ビ ュ ー シ ー ト（40%）、最 終 試 験（20%）等 で 総 合 評 価 す る。									
学 生 へ の ア ド バ イ ス： レポ ー ト ・ 論 文 の ラ イ テ ィ ン グ か ら は ア カ デ ミ ッ ク ・ ラ イ テ ィ ン グ の 技 法 が、ジャーナルライティングからは小冊子やweb記事に書く技法が身につく。									
オ フ ィ ス ア ワ ー： 初 回 講 義 日 に 伝 え る。									

開 講 年 次	3 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修	選 択	単 位 数	2	時 間 数	30	授業形態	講 義
授業科目(英文)	労働法Ⅰ（Labor LawⅠ）						科目分類	専門科目	
担 当 教 員	福島 崇宏								
履 修 条 件	前提科目	法学、私法学など法学関連の基礎科目							
	そ の 他	なし							
授業概要： これから就職活動を行い実社会に羽ばたこうとする学生諸君にとって、労働法は自らの働く権利を守るための有効な手段となり得るはずである。昨今社会問題となっているブラック企業の存在や長時間労働の是正、男女間の賃金格差など、労働環境を巡る具体的な課題を取り上げながら、労働法体系全般の根底に流れているものをつかむことを主旨とする。									
授業目標： 1. 労働法体系の基盤となる法概念について自らの言葉で説明できる。 2. 身近に起きている労働争議について、判例を基に現状と課題を説明できる。									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得				思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養		
◎				○					
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態	
1	労働法を学ぶに当たって（導入） ・社会の中で労働法がどのように機能しているのかを考える。					事前：教本p.2～6精読 事後：演習問題への解答		講義60分、討論30分	
2	労働契約関係の特徴と法規制 ・労働法が社会法と呼ばれる所以を理解する。					事前：教本p.6～18精読 事後：演習問題への解答		講義60分、討論30分	
3	労働契約上の権利義務 ・労働契約上の主たる義務について理解を深める。					事前：教本p.20～24精読 事後：演習問題への解答		講義60分、討論30分	
4	労働基準法による保護 ・労働者及び使用者の概念について議論を深める。					事前：教本p.24～32精読 事後：演習問題への解答		講義60分、討論30分	
5	労働条件の決定 ・労働条件の決定を司る規則について理解を深める。					事前：教本p.32～37精読 事後：演習問題への解答		講義60分、討論30分	
6	就業規則 ・就業規則の効力について判例を基に議論を深める。					事前：教本p.38～44精読 事後：演習問題への解答		講義60分、討論30分	
7	採用の自由 ・採用の自由の意義と制限について理解を深める。					事前：教本p.46～51精読 事後：演習問題への解答		講義60分、討論30分	
8	労働契約の成立・取消し ・採用内定にかかる問題について理解を深める。					事前：教本p.52～59精読 事後：演習問題への解答		講義60分、討論30分	
9	人事① ・配転、出向、転籍に関する理解を深める。					事前：教本p.60～68精読 事後：演習問題への解答		講義60分、討論30分	
10	人事② ・昇進、昇格、降格などにかかる人事制度を理解する。					事前：教本p.68～79精読 事後：演習問題への解答		講義60分、討論30分	
11	賃金① ・賃金に関する法体系の特徴を理解する。					事前：教本p.80～88精読 事後：演習問題への解答		講義60分、討論30分	
12	賃金② ・賃金の支払いに関する法的規制について議論を深める。					事前：教本p.89～96精読 事後：演習問題への解答		講義60分、討論30分	
13	労働時間・休憩・休日① ・労働時間の基本原則を中心に理解を深める。					事前：教本p.98～107精読 事後：演習問題への解答		講義60分、討論30分	
14	労働時間・休憩・休日② ・変形労働時間制など柔軟な労働時間制度について理解する。					事前：教本p.107～116精読 事後：演習問題への解答		講義60分、討論30分	
15	まとめ ・労働法Ⅰの内容を振り返り、理解を深める。					事前：教本p.2～116再読 事後：まとめノートの作成		講義60分、討論30分	
教本：小畑史子、緒方桂子、竹内（奥野）寿『労働法〔第4版〕』有斐閣、2023年。参考文献：授業内容に応じて適宜紹介する。※学習用六法は必携です。									
成績評価の方法、評価基準： 授業参加状況等（20％）、小テスト・レポート等（80％）で総合評価する。									
学生へのアドバイス： これから一社会人として働くための権利を保護する労働法体系の現状と課題を把握できるように努力して下さい。									
オフィスアワー： 初回講義日に伝える。									

開 講 年 次	3 年次 半期	選択・必修	選択	単 位 数	2	時 間 数	30	授業形態	講義
授業科目(英文)	労働法Ⅱ（Labor Law Ⅱ）						科目分類	専門科目	
担 当 教 員	福島 崇宏								
履 修 条 件	前提科目	労働法Ⅰ							
	そ の 他	なし							
授業概要： これから就職活動を行い実社会に羽ばたこうとする学生諸君にとって、労働法は自らの働く権利を守るための有効な手段となり得るはずである。昨今社会問題となっているブラック企業の存在や長時間労働の是正、男女間の賃金格差など、労働環境を巡る具体的な課題を取り上げながら、労働法体系全般の根底に流れているものをつかむことを主旨とする。									
授業目標： 1. 労働法体系の基盤となる法概念について自らの言葉で説明できる。 2. 身近に起きている労働争議について、判例を基に現状と課題を説明できる。									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成				学びに向かう力・人間性の涵養		
◎			○						
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態	
1	労働法Ⅱを学ぶに当たって（導入） ・労働法Ⅰで学んだ内容を確認する。					事前：教本p.2～116精読 事後：演習問題への解答		講義60分、討論30分	
2	休暇・休業① ・育児、介護休業法の概要を理解する。					事前：教本p.117～127精読 事後：演習問題への解答		講義60分、討論30分	
3	休暇・休業② ・休暇・休業取得等を理由とする不利益取扱を検討する。					事前：教本p.128～131精読 事後：演習問題への解答		講義60分、討論30分	
4	差別禁止の法ルール ・職場における差別を禁止する法制度について理解を深める。					事前：教本p.132～141精読 事後：演習問題への解答		講義60分、討論30分	
5	性別を理由とする差別禁止 ・男女雇用機会均等法の特徴について理解を深める。					事前：教本p.142～149精読 事後：演習問題への解答		講義60分、討論30分	
6	安全衛生 ・健康で安全に働くための法制度について理解する。					事前：教本p.150～152精読 事後：演習問題への解答		講義60分、討論30分	
7	労働災害 ・労災に関する法制度について理解する。					事前：教本p.153～166精読 事後：演習問題への解答		講義60分、討論30分	
8	労働契約の終了① ・合意解約、定年制について理解を深める。					事前：教本p.167～180精読 事後：演習問題への解答		講義60分、討論30分	
9	労働契約の終了② ・解雇を巡る規制と救済措置について理解を深める。					事前：教本p.181～186精読 事後：演習問題への解答		講義60分、討論30分	
10	非典型雇用① ・パートタイム労働と有期労働契約について検討する。					事前：教本p.187～198精読 事後：演習問題への解答		講義60分、討論30分	
11	非典型雇用② ・労働者派遣法の特徴と保護について理解を深める。					事前：教本p.199～209精読 事後：演習問題への解答		講義60分、討論30分	
12	労働組合 ・労働法の保護を受ける労働組合の特徴を理解する。					事前：教本p.210～219精読 事後：演習問題への解答		講義60分、討論30分	
13	不当労働行為 ・労働組合の運営にかかる労使間争議について理解する。					事前：教本p.220～228精読 事後：演習問題への解答		講義60分、討論30分	
14	団体交渉 ・団体交渉の意義、機能、実態について理解する。					事前：教本p.229～245精読 事後：演習問題への解答		講義60分、討論30分	
15	まとめ ・労働法Ⅱの内容を振り返り、理解を深める。					事前：教本p.117～245再読 事後：まとめノートの作成		講義60分、討論30分	
教本： 小畑史子、緒方桂子、竹内（奥野）寿『労働法［第4版］』有斐閣、2023年。					参考文献： 授業内容に応じて適宜紹介する。※学習用六法は必携です。				
成績評価の方法、評価基準： 授業参加状況等（20％）、小テスト・レポート等（80％）で総合評価する。									
学生へのアドバイス： これから一社会人として働くための権利を保護する労働法体系の現状と課題を把握できるように努力して下さい。									
オフィスアワー： 初回講義日に伝える。									